F146
492

GENESIS.

舊約聖書 創世記

大日本聖書館

橫濱市山下町六十番

PUBLISHED
BY THE
BIBLE SOCIETIES' COMMITTEE
FOR
JAPAN.

No. 5 type, Paper-cover Edition.

特61
858

GENESIS

舊約聖書 創世記

大日本聖書館

橫濱市山下町六十番

PUBLISHED
BY THE
BIBLE SOCIETIES' COMMITTEE
FOR
JAPAN.

No. 5 type, Paper cover Edition.

創世記

第一章

一 元始に神天地を創造たまへり 二 地ハ定形なく曠空くして黒暗淵の
面にあり神の靈水の面を覆たりき 三 神光あれと言たまひければ光ありき
四 神光を善と觀たまへり神光と暗を分ちたまへり 五 神光を晝と名け暗
を夜と名けたまへり夕あり朝ありき是首の日なり 六 神言たまひけるハ水
の中に穹蒼ありて水と水とを分つべし 七 神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と
穹蒼の上の水とを判ちたまへり即ち斯なりぬ 八 神穹蒼を天と名けたまへ
り夕あり朝ありき是二日なり 九 神言たまひけるハ天の下の水ハ一處に集
りて乾ける土顯べしと即ち斯なりぬ 十 神乾ける土を地と名け水の集合
るを海と名けたまへり神これを善と觀たまへり 十一 神言たまひけるハ地ハ
青草と實蔬を生ずる草蔬と其類に從ひみづから核をもつ所の樹を地に發
生すべしと即ち斯なりぬ 十二 地青草と其類に從がひ實蔬を生ずる草蔬と其
類に從がひ果をむすびてみづから核をもつ所の樹を發生せり神これを善

と觀たまへり十三夕あり朝ありき是三日なり十四神言たまひけるい天の穹蒼
に光明ありて晝と夜とをわかち又天象のため時節のため日のため年のた
めに成べし十五又天の穹蒼にありて地を照す光となるべしと即ち斯なりぬ
十六神二の巨なる光をつくり大なる光に晝を司どらしめ小き光に夜を司ど
らしめたまふまた星を造りたまへり十七神これを天の穹蒼に置て地を照さ
しめ十八晝と夜を司どらしめ光と暗を分たしめたまふ神これを善と觀たま
へり十九夕あり朝ありき是四日なり二十神いひたまひけるい水にい生物饒に
生じ鳥い天の穹蒼の面に地の上に飛べしと二一神巨なる魚と水に饒に生じ
てうごく諸の生物を其類に從ひて造り又羽翼ある諸の鳥を其類に從ひ
て創造りたまへり神之を善と觀たまへり二二神之を祝して曰く生よ繁息よ
海の水に充物よ又禽鳥い地に蕃息よと二三夕あり朝ありき是五日なり二四神
言給けるい地い生物を其類に從て出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に從て
出すべしと即ち斯なりぬ二五神地の獸を其類に從て造り家畜を其類に從て
造り地の諸の昆蟲を其類に從て造り給へり神之を善と觀給へり二六神言給
けるい我儕に象て我等の像の如くに我等人を造り之に海の魚と天空の鳥
と家畜と全地と地に匍ふ所の諸の昆蟲を治しめんと二七神其像の如くに人
を創造たまへり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり
二八神彼等を祝し神彼等に言たまひけるい生よ繁殖よ地に滿盈よ之を服從
せよ又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ二九神言たまひ
けるい視よ我全地の面にある實蔬のなる諸の草蔬と核ある木菓の結る諸
の樹とを汝等に與ふこれい汝らの糧となるべし三十又地の諸の獸と天空の
諸の鳥および地に匍ふ諸の物等凡う生命ある者にい我食物として諸の青
き草を與ふと即ち斯なりぬ三一神其造りたる諸の物を視たまひけるに甚だ
善りき夕あり朝ありき是六日なり

第二章　斯天地および其衆群悉く成ぬ二第七日に神其造りたる工を竣た
まへり即ち其造りたる工を竣て七日に安息たまへり三神七日を祝して之

を神聖めたまへり其ハ神其創造爲たまへる工を盡く竣て是日に安息みたまひたれバなり四エホバ神地と天を造りたまへる日に天地の創造られたる其由來ハ是なり五野の諸の灌木ハ未だ地にあらず野の諸の草蔬ハ未生せざりき其ハエホバ神雨を地に降せたまハず亦土地を耕す人なかりけれバなり六霧地より上りて土地の面を遍く潤したり七エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に噓入たまへり人即ち生靈となりぬ八エホバ神エデンの東の方に園を設て其造りし人を其處に置たまへり九エホバ神觀に美麗く食ふに善き各種の樹を土地より生せしめ又園の中に生命の樹および善惡を知の樹を生せしめ給へり十河エデンより出て園を潤し彼處より分れて四の源となれり十一其第一の名ハピソンといふ是ハ金あるハビラの全地を繞る者なり十二其地の金ハ善し又ブドラクと碧玉彼處にあり十三第二の河の名ハキホンといふ是ハクシの全地を繞る者なり十四第三の河の名ハヒデケルといふ是ハアッスリヤの東に流るゝものなり第四の河ハユフラ

テなり十五エホバ神其人を擧て彼をエデンの園に置き之を理め之を守らし十六め給へり十六エホバ神其人に命じて言たまひけるハ園の各種の樹の果ハ汝意のまゝに食ふことを得十七然ど善惡を知の樹ハ汝之を食ふ日にハ必ず死べければなり十八エホバ神言たまひけるハ人獨なるハ善らず我彼に適ふ助者を彼のために造らんと十九エホバ神土を以て野の諸の獸と天空の諸の鳥を造りたまひてアダムの之を何と名るかを見んとて之を彼の所に率ゐいたりたまへりアダムが生物に名けたる所ハ皆其名となりぬ二十アダム諸の家畜と天空の鳥と野の諸の獸に名を與へたり然どアダムにハ之に適ふ助者みえざりき二一是に於てエホバ神アダムを熟睡らしめ睡りし時其肋骨の一を取り肉をもて其處を塡塞たまへり二二エホバ神アダムより取たる肋骨を以て女を成り之をアダムの所に攜きたりたまへり二三アダム言けるハ此ハ男より取たる者なれバ之を女と名くべしと二四是の故に人ハ其父母を離れて其妻に

好合ひ二人一体となるべしアダムと其妻ゐ二人倶に裸体にして愧ざりき

一 第三章エホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇最も狡猾し蛇婦に言ひ
二 けるゐ神眞に汝等園の諸の樹の果ゐ食ふべからずと言たまひしや三婦蛇
三 に言けるゐ我等園の樹の果を食ふことを得三然ど園の中央に在樹の果實
四 をバ神汝等之を食べからず又之に捫るべからず恐ゐ汝等死んと言給へり
五 四蛇婦に言けるゐ汝等必らず死る事あらじ五神汝等が之を食ふ日には汝
六 等の目開け汝等神の如くなりて善悪を知に至るを知りたまふあり六婦
七 樹を見バ食に善く目に美麗しく且智慧からんが爲に慕ふしき樹なるによ
八 りて遂に其果實を取て食ひ亦之を己と偕なる夫に與へければ彼食へり七
九 是において彼等の目俱に開て彼等其裸體なるを知り乃ち無花果樹の葉を
十 綴て裳を作れり八彼等園の中に日の清涼き時分歩みたまふエホバ神の聲
を聞しかバアダムと其妻卽ちエホバ神の面を避て園の樹の間に身を匿せ
り九エホバ神アダムを召て之に言たまひけるゐ汝ゐ何處にをるや十彼ゐ

十一 ひけるゐ我園の中に汝の聲を聞き裸体なるにより懼れて身を匿せりと十一
十二 エホバ言たまひけるゐ誰が汝の裸なるを汝に告しや汝ゐ我が汝に食ふな
十三 かれと命じたる樹の果を食ひたりしやと十二アダム言けるゐ汝が與て我と偕
ならしめたまひし婦彼其樹の果實を我にあたへたれバ我食へりと十三エホ
バ神婦に言たまひけるゐ汝がなしたる此事ゐ何ぞや婦言けるゐ蛇我を誘
十四 惑して我食へりと十四エホバ神蛇に言たまひけるゐ汝是を爲たるに因て汝
十五 ゐ諸の家畜と野の諸の獣よりも勝りて詛ゐ汝ゐ腹行て一生の間塵を食
ふべし十五又我汝と婦の間および汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん彼
ゐ汝の頭を砕き汝ゐ彼の踵を砕かん十六又婦に言たまひけるゐ我大に汝の
十六 懐妊の劬勞を増すべし汝ゐ苦みて子を産ん又汝ゐ夫を慕ひ彼ゐ汝を治
十七 めん十七又アダムに言たまひけるゐ汝ろの妻の言を聽て我が汝に命じて食
ふべからずと言たる樹の果を食ひしに縁て土ゐ汝のために詛ゐ汝ゐ一
十八 生のあひだ勞苦て其より食を得ん十八土ゐ荊棘と薊とを汝のために生ずべ

十九 しまた汝ゐ野の草蔬を食ふべし十九汝ゐ面に汗して食物を食ひ終に土に歸
らん其ゐ其中より汝ゐ取れたれバなり汝ゐ塵なれバ塵に皈るべきなりと
二十 二十アダム其妻れ名をエバと名けたり其ゐ彼ゐ群の生の母なれバなり二一
二一 エホバ神アダムと其妻のために皮衣を作りて彼等に衣せたまへり二二エホ
バ神曰たまひけるゐ視よ夫人我等の一の如くなりて善惡を知る然バ恐く
二二 二三 ゐ彼其手を舒べ生命の樹の菓實をも取りて食ひ無限生んと二三エホバ神彼
をエデンの園よりいだし其取て造られたるところの土を耕さしめたまへ
二四 り二四斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焰の劍
を置て生命の樹の途を保守りたまふ

一 第四章 アダム其妻エバを知る彼孕みてカインを生みて言けるゐ我エホバ
により一箇の人を得たりと二彼また其弟アベルを生りアベルゐ羊を
二 三 牧ふ者カインゐ土を耕す者なり三日を經て後カイン土より出る果を携
來りてエホバに供物となせり四アベルもまた其羊の初生と其肥たる者を

五 携來れりエホバアベルと其供物を看顧みたまひしかども五カインと其供
六 をバ眷みたまわざりしかバカイン甚く怒り且其面をふせたり六エホバカ
七 インに言たまひけるゐ汝何ぞ怒るや何ぞ面をふするや七汝若善を行ゑば
舉ることをえざらんや若善を行わずバ罪門戸に伏す彼ゐ汝を慕ひ汝ゐ彼
八 を治めんバカイン其弟アベルに語りぬ彼等野にをりける時カイン其
九 弟アベルに起かゝりて之を殺せり九エホバカインに言たまひけるゐ汝
の弟アベルゐ何處にをるや彼言ふ我ゑらず我あに我弟の守者ならん
十 やと十エホバ言たまひけるゐ汝何をなしたるや汝の弟の血の聲地より我
に叫べり十一されバ汝ゐ詛れて此地を離るべし此地其口を啓きて汝の弟の
十一 十二 血を汝の手より受たればなり十二汝地を耕すとも地之再其力を汝に效さ
十三 じ汝ゐ地に吟行ふ流離子となるべしと十三カインエホバに言けるゐ我が罪
十四 ゐ大にして負ふこと能ゐず十四視よ汝今日斯地の面より我を逐出したまふ
我汝の面を覩ることなきにいたらん我地に吟行ふ流離子とならん凡ゐ我

十五 に遇ふ者我を殺さん十五エホバ彼に言たまひけるは然らず凡カインを殺
す者は七倍の罰を受んとエホバカインに遇ふ者の彼を撃ざるため印誌を
十六 彼に與へたまへり十六カインエホバの前を離て出でエデンの東なるノドの
十七 地に住り十七カイン其妻を知る彼孕みエノクを生りカイン邑を建て其邑の
十八 名を其子の名に循ひてエノクと名けたり十八エノクにイラデ生れたりイラ
デメホヤエルを生みメホヤエルメトサエルを生みメトサエルレメクを生
十九二十 り十九レメク二人の妻を娶れり一の名はアダと曰ひ一の名はチラと曰り二十
二一 アダヤバルを生めり彼は天幕に住て家畜を牧ふ所の者の先祖なり二一其弟
二二 の名はユバルと云ふ彼は琴と笛とをとる凡ての者の先祖なり二二亦チラト
バルカインを生り彼は銅と鐵の諸の刀物を鍛ふ者なりトバルカインの妹
二三 をナアマといふ二三レメク其妻等に言けるはアダとチラよ我聲を聽けレメ
クの妻等よわが言を容よ我わが創傷のために人を殺すわが痍のために少
二四 年を殺す二四カインのためには七倍の罰あればレメクのためには七十七倍の

二五 罰あらん二五アダム復其妻を知て彼男子を生み其名をセツと名けたり其は
彼神我にカインの殺したるアベルのかはりに他の子を與へたまへりといひ
二六 たればなり二六セツにもまた男子生れたりかれ其名をエノスと名けたり
此時人々エホバの名を呼ことをはじめたり

第五章 アダムの傳の書はこれ是なり神人を創造りたまひし日に神に象て之を
一 造りたまひ二彼等を男女に造りたまへり彼等の創造られし日に神彼等を
二 祝してかれらの名をアダムと名けたまへり三アダム百三十歳に及びて其
三 像に循ひ己に象て子を生み其名をセツと名けたり四アダムのセツを生し
四 後の齢は八百歳にして男子女子を生り五アダムの生存へたる齢は都合九
五 百三十歳なりき而して死り六セツ百五歳に及びてエノスを生り七セツエ
六 ノスを生し後八百七年生存へて男子女子を生り八セツの齢は都合九百十
七 二歳なりき而して死り九エノス九十歳におよびてカイナンを生り十エノ
八 スカイナンを生し後八百十五年生存らへて男子女子を生り十一エノスの齢
九
十
十一
十二

十二 い都合九百五歳なりき而して死り十三カイナン七十歳におよびてマハラレ
十三 ルを生り十三カイナンマハラレルを生し後八百四十年生存へて男子女子を
十四十五 生り十四カイナンの齢い都合九百十歳なりき去かして死り十五マハラレル六
十六 十五歳に及びてヤレドを生り十六マハラレル
十七 存へて男子女子を生り十七マハラレルの齢い都合八百九十五歳なりき而し
十八十九 て死り十八ヤレド百六十二歳に及びてエノクを生し
二十 後八百年生存へて男子女子を生り二十ヤレドの齢い都合九百六十二歳な
二十一二十二 りき而して死り二一エノク六十五歳に及びてメトセラを生り二二エノクメト
二十三 セラを生し後三百年神とゝもに歩み男子女子を生り二三エノクの齢い都合
二十四 三百六十五歳なりき二四エノク神と偕に歩みしが神かれを取りたまひけれ
二十五二十六 ばをらずなりき二五メトセラ百八十七歳におよびてレメクを生り二六メトセ
二十七 ラレメクを生しのち七百八十二年生存へて男子女子を生り
二十八 齢い都合九百六十九歳なりき而して死り二八レメク百八十二歳に及びて男

子を生み二九其名をノアと名けて言けるい此子いエホバの詛ひたまひし地
に由れる我操作と我勞苦とに就て我らを慰めん三十レメクノアを生し後五
百九十五年生存へて男子女子を生り三一レメクの齢い都合七百七十七歳な
りき而して死り三二ノア五百歳なりきノアセム ハム ヤペテを生り

第六章

人地の面に繁衍はじまりて女子之に生るゝに及べる時二神の子等
人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻とあせり三エホバいひた
まひけるい我靈永く人と爭いじ其い彼も肉あれバなり然ど彼の日い百二
十年なるべし四當時地に子ピリムありき亦其後神の子輩人の女の所に入
りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔の名聲ある人なりき五
エホバ人の惡の地に大なると其心の思念の都て圖維る所の恒に惟惡きの
みなるを見たまへり六是に於てエホバ地の上に人を造りしことを悔いて
心に憂へたまへり七エホバ言たまひけるい我が創造りし人を我地の面よ
り拭去ん人より獸昆蟲天空の鳥にいたるまでほろぼさん其い我之を造り

しことを悔れバなりと八されどノアハエホバの目のまへに恩を得たり九
ノアの傳ハ是なりノアハ義人にして其世の完全き者なりきノア神と偕に
歩めり十ノアハセム ハム ヤペテの三人の子を生り十一時に世神のまへに
亂れて暴虐世に滿盈ちたりき十二神世を視たまひけるに視よ亂れたり其ハ
世の人皆其道をみだしたれバなり十三神ノアに言たまひけるハ諸の人の末
期わが前に近づけり其ハ彼等のために暴虐世にみつれバなり視よ我彼等
を世とゝもに剪滅さん十四汝松木をもて汝のために方舟を造り方舟の中に
房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし十五汝かく之を作るべし即ち其方舟
の長ハ三百キユビト其濶ハ五十キユビト其高ハ三十キユビト十六又方舟に
導光牖を作り上一キユビトに之を作り終べし又方舟の戸ハ其傍に設くべ
し下牀と二階と三階とに之を作るべし十七視よ我洪水を地に起して凡て生
命の息氣ある肉なる者を天下より剪滅し絶ん地にをる者ハ皆死ぬべし十八
然ど汝どハ我わが契約をたてん汝ハ汝の子等と汝の妻および汝の子等の

十九 妻とゝもに其方舟に入るべし十九又諸の生物總て肉なる者をバ汝各其二
を方舟に率へいりて汝とゝもに其生命を保たしむべし其等ハ牝牡なるべ
二十 し二十鳥其類に從ひ獣其類に從ひ地の諸の昆蟲其類に從ひて各二ツ汝の所
二一 に至りて其生命を保つべし二一汝食ハるゝ諸の食品を汝の許に取て之を汝
二二 の所に集むべし是則ち汝と是等の物の食品となるべし二二ノア是爲し都て
神の己に命じたまひしごとく然爲せり

第七章 一エホバノアに言たまひけるハ汝と汝の家皆方舟に入べし我汝がこ
の世れ人の中にてわが前に義を視たれバなり二諸の潔き獣を牝牡七宛汝
の許に取り潔らぬ獣を牝牡二ツ亦天空の鳥を雌雄七宛取て種を全地の面
に生のこらむべし三今七日ありて我四十日四十夜地ゐ雨ふらしめ我造
りたる萬有を地の面より拭去ん四ノア エホバの凡て己に命じたまひし如
くなせり五ノア六百歳なりきし地に洪水ありける時にノア其子等と其妻
および其子等の妻と倶に洪水を避て方舟にいりぬ八潔き獣と潔らざる獣

と鳥および地に匐ふ諸の物九牝牡二宛ノアに來りて方舟にいりぬ神のノ
アに命じたまへるが如し十かくて七日の後洪水地に臨めり十一ノアの齡の
六百歳の二月卽ち其月の十七日に其日に當り此日に大淵の源皆潰れ天の戸開
けて十二雨四十日四十夜地に注げり十三是日にノアとノアの子セム、ハム、ヤ
ペテおよびノアの妻と其子等の三人の妻諸俱に方舟にいりぬ十四彼等およ
び諸の獸其類に從ひ都て地に匐ふ昆蟲其類に從ひ都て家畜其類に從ひ諸
の禽卽ち各樣の類の鳥皆其類に從ひて入りぬ十五卽ち生命の氣息ある諸の
肉なる者二宛ノアに來りて方舟にいりぬ十六入たる者は諸の肉なる者の牝
牡にして皆いりぬ神の彼に命じたまへるが如しエホバ乃ち彼を閉置たま
へり十七洪水四十日地にありき是において水增し方舟を浮めて方舟地の上
に高くあがれり十八而して水瀰漫りて大に地に增しぬ方舟は水の面に漂へ
り十九水甚大に地に瀰漫りければ天下の高山皆おほはれたり二十水そびこ
りて十五キユビトに上りければ山々おほはれたり二一凡う地に動く肉なる

者鳥家畜獸地に匐ふ諸の昆蟲およびに人皆死り二三卽ち凡う其鼻に生命の氣
息のかよふ者都て乾土にある者は死り二三斯地の表面にある萬有を人より
家畜昆蟲天空の鳥にいたるまで盡く拭去たまへり是等は地より拭去れた
り唯ノアおよび彼とともに方舟にありし者のみ存れり二四水百五十日のあ
ひだ地にはびこりぬ

第八章　神ノアおよび彼とともに方舟にある諸の生物と諸の家畜を眷念ひ
たまひて神乃ち風を地の上に吹しめたまひければ水減りたり二亦淵の源
と天の戸閉塞りて天よりの雨止ぬ三是に於て水次第に地より退き百五十
日を經てのち水減り四方舟は七月に至り其月の十七日にアラテの山に
止りぬ五水次第に減て十月に至りしが十月の月朔に山々の巓現れたり
六四十日を經てのちノアその方舟に作りし窓を啓て七鴉を放出ちけるが水
の地に涸るまで往來しをれり八彼地の面より水の減少しかを見んとて亦
鴿を放出いだしけるが九鴿其足の跖を止べき處を得ずして彼に還りて方

十　舟に至れり其ハ水全地の面にありたれバなり彼乃ち其手を舒て之を執へ
方舟の中におのれの所に接入たり十一尚又七日待て再び鴿を方舟より放出
十一　ちけるが十二鴿暮におよびて彼に還れり視よ其口に橄欖の新葉ありき是に
十二　於てノア地より水の減少しをしれり十三尚又七日まちて鴿を放出ちけるが
十三　再び彼の所に歸らざりき十三六百一年の一月の月朔に水地に涸たりノア乃
十四　ち方舟の蓋を撤きて視しに視よ土の面ハ燥てありぬ十四二月の二十七日に
十五十六　至りて地乾きたり十五爰に神ノアに語りて言給ハく十六汝および汝の妻と汝
十七　の子等と汝の子等の妻ともに方舟を出べし十七汝とゝもにある諸の肉なる
諸の生物諸の肉なる者則ち鳥家畜および地に匍ふ諸の昆蟲を率いでよ
十八　此等ハ地に饒く生育地の上に生且殖増すべし十八ノアと其子等と其妻およ
十九　び其子等の妻ともに出たり十九諸の獸諸の昆蟲および諸の鳥等凡ろ地に動
二十　く者種類に從ひて方舟より出たり二十ノアヱホバのために壇を築き諸の潔
二一　き獸と諸の潔き鳥を取て燔祭を壇の上に献げたり二一ヱホバ其馨き香を

二二　聞ぎたまひてヱホバ其意に謂たまひけるハ我再び人の故に因て地を詛ふ
ことをせじ其ハ人の心の圖維るところ其幼少時よりして惡かれバなり又
我曾て爲たる如く再び諸の生る物を撃ち滅さじ二二地のあらん限りハ播種
時、収穫時、寒熱夏冬および日と夜息ことあらじ

一　**第九章**神ノアと其子等を祝して之に曰たまひけるハ生よ増殖よ地に滿よ
二　二地の諸の獸畜天空の諸の鳥地に匍ふ諸の物海の諸の魚汝等を畏れ汝等
三　に懾かん是等ハ汝等の手に與へらる三凡ろ生る動物ハ汝等の食となるべ
四　し菜蔬のごとく我之を皆汝等に與ふ四然ど肉を其生命なる其血のまゝに
五　食ふべからず五汝等の生命の血を流すをバ我必ず討さん獸之をなすも人
六　これを爲すも我討さん凡ろ人の兄弟人の生命を取バ我討すべし六凡ろ人
の血を流す者ハ人其血を流さん其ハ神の像のごとくに人を造りたまひた
七八　れバなり七汝等生よ増殖よ地に饒くなりて其中に増殖よ八神ノアおよび
九　彼と偕にある其子等に告て言たまひけるハ九見よ我汝等と汝等の後の子

十 孫十および汝等と偕なる諸の生物即ち汝等とともなる鳥家畜および地の
諸の獸と契約を立ん都て方舟より出たる者より地の諸の獸にまで至らん
十一 十一我汝等と契約を立ん總て肉なる者ハ再び洪水に絶るゝ事あらじ又地を
十二 滅す洪水再びあらざるべし十二神言たまひけるハ我が我と汝等および汝等
十三 と偕なる諸の生物の間に世々限りなく爲す所の契約の徵ハ是なり十三我わ
十四 が虹を雲の中に起さん是我と世との間ハ契約の徵なるべし十四卽ち我雲を
十五 地の上に起す時虹雲の中に現るべし十五我乃ち我と汝等および總て肉なる
諸の生物の間のわが契約を記念はん水再び諸の肉なる者を滅す洪水とな
十六 らじ十六虹雲の中にあらん我之を觀て神と地にある都て肉なる諸の生物と
十七 の間なる永遠の契約を記念えん十七神ノアに言たまひけるハ是ハ我が我と
十八 地にある諸の肉なる者との間に立たる契約の徵なり十八ノアの子等の方舟
十九 より出たる者ハセムハムヤペテなりきハムハカナンの父なり十九是等ハ
二十 ノアの三人の子なり全地の民ハ是等より出て蔓延れり二十爰にノア農夫と

二一 なりて葡萄園を植ることを始しが二一葡萄酒を飲て醉天幕の中にありて裸
二二 になれり二二カナンの父ハム其父のかくし所を見て外にありし二人の兄弟
二三 に告たり二三セムとヤペテ乃ち衣を取て倶に其肩に負け後向に歩みゆきて
二四 其父の裸體を覆へり彼等面を背にして其父の裸體を見ざりき二四ノア酒さ
二五 めて其若き子の己に爲たる事を知れり二五是に於て彼言けるハカナン詛は
二六 れよ彼ハ僕輩の僕となりて其兄弟に事へん二六又いひけるハセムの神ヱホ
二七 バハ讃べきかなカナン彼の僕となるべし二七神ヤペテを大ならしめたまハ
二八 ん彼ハセムの天幕に居住ハんカナン其僕となるべし二八ノア洪水の後三百
五十年生存へたりノアの齡ハ都て九百五十年なりき而して死り

第十章

一 ノアの子セムハムヤペテの傳ハ是なり洪水の後彼等に子等生れ
二 たり二ヤペテの子ハゴメルマゴグマデアヤワントバルメセクテラスな
三 四 り三ゴメルの子ハアシケナズリパテトガルマなり四ヤワンの子ハエリ
五 シヤタルシシキツテムおよびドダニムなり五是等より諸國の洲島の民

六 ハ派分れ出て各其方言と其宗族と其邦國とに循ひて其地に住りヤハム
七 の子ハクシミツライム フテおよびカナンなりセクシの子ハセバハビラ
八 サブタ ラアマ サブテカなりラアムの子ハシバおよびデダンなりハクシ
九 ニムロデを生り彼始めて世の權力ある者となれり九彼ハエホバの前にあ
十 りて權力ある獵夫なりき是故にエホバの前にある夫權力ある獵夫ニムロ
十一 デの如しといふ諺あり十彼の國の起初ハシナルの地のバベル エレクア
十二 ツカデおよびカルネなりき十一其地より彼アッスリヤに出でニネベレホボ
十三 テイリカラ十二およびニネベとカラの間なるレセンを建たり是ハ大なる城
十四 邑なり十三ミツライムルデ族アナミ族レハビ族ナフト族十四パテロス族カ
十五 スル族およびカフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり十五カナン
十六 十七 其冢子シドンおよびヘテ十六エブス族アモリ族ギルガシ族十七ヒビ族アルキ
十八 族セニ族十八アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り後に至りてカナン人の宗
十九 族蔓延りぬ十九カナン人の境ハシドンよりゲラルを經てガザに至りソドム

二十 ゴモラアデマゼボイムに沿てレシヤにまで及べり二十是等ハムの子孫
二一 にして其宗族と其方言と其土地と其邦國に隨ひて居りぬ二一セムハエベル
二二 の全の子孫の先祖にしてヤペテの兄あり彼にも子女生れたり二二セムの子
二三 ハエラム アシユル アルパクサデル ルデアラムなり二三アラムの子ハウヅホ
二四 ル ゲテル マシなり二四アルパクサデハシラを生みシラ エベルを生り
二五 二五エベルに二人の子生れたり一人の名をペレグ(分れ)といふ其ハ彼の代に邦國
二六 分れたればなり其弟の名をヨクタンと曰ふ二六ヨクタンアルモダデシヤ
二七 レフ ハザルマウテ エラ二七ハドラム ウザル デクラ二八オバル アビマエル
二八 シバ二九オフル ハビラおよびヨバブを生り是等ハ皆ヨクタンの子なり三十彼
二九 等の居住所ハメシヤよりして東方の山セバルにまで至れり三一是等ハセム
三十 の子孫にして其宗族と其方言と其土地と其國邦とに隨ひて居りぬ三二是等
三一 ハノアの子の宗族にして其血統と其邦國に隨ひて居りぬ洪水の後是等よ
三二 り地の邦國の民ハ派分れ出たり

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一

第十一章 全地い一の言語一の音のみなりき二茲に人衆東に移りてシナルの地に平野を得て其處に居住り三彼等互に言けるい去來甎石を作り之を善く燔んと遂に石の代に磚石を獲瀝沙の代に石漆を獲たり四又曰けるい去來邑と塔とを建て其塔の頂を天にいたらしめん斯して我等名を揚て全地の表面に散ることを免れんと五エホバ降臨りて彼人衆の建る邑と塔とを觀たまへり六エホバ言たまひけるい視よ民い一にして皆一の言語を用ふ今既に此を爲し始めたり然ば凡て其爲んと圖維る事い禁止め得られざるべし七去來我等降り彼處にて彼等の言語を淆し互に言語を通ずることを得ざらしめんと八エホバ遂に彼等を彼處より全地の表面に散したまひければ彼等邑を建ることを罷たり九是故に其名いバベル（淆亂）と呼ぶ是いエホバ彼處に全地の言語を淆したまひしに由てなり彼處よりエホバ彼等を全地の表に散したまへり十セムい傳い是なりセム百歳にして洪水の後の二年にアルパクサデを生り十一セムアルパクサデを生し後五百年生存へて男子女子を生り十二アルパクサデ三十五歳に及びてシラを生り十三シラ三十歳におよびてエベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り十四エベル三十四歳におよびてペレグを生し後四百三十年生存へて男子女子を生り十五ペレグ三十歳におよびてリウを生し後二百九年生存へて男子女子を生り十六リウ三十二歳におよびてセルグを生し後二百七年生存へて男子女子を生り十七セルグ三十歳におよびてナホルを生し後二百年生存へて男子女子を生り十八ナホル二十九歳に及びてテラを生り十九テラ七十歳に及びてアブラムナホルおよびハランを生り二十アブラムナホルおよびハランを生しハラン、ロトを生り二一ハラン是なりテラアブラム、ナホルおよびハランい其父テラに先ちて其生處なるカルデアのウルにて死たり二二アブラム

十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九

存へて男子女子を生り十三アルパクサデ三十五歳に及びてシラを生り十四シラ三十歳におよびてエベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り十五シラ エベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り十六エベル三十四歳におよびてペレグを生し後四百三十年生存へて男子女子を生り十七エベルペレグを生し後二百九年生存へて男子女子を生り十八ペレグ三十歳におよびてリウを生り十九ペレグリウを生し後二百七年生存へて男子女子を生り二十リウ三十二歳におよびてセルグを生り二一リウセルグを生し後二百七年生存へて男子女子を生り二二セルグ三十歳におよびてナホルを生り二三セルグナホルを生しのち二百年生存へて男子女子を生り二四ナホル二十九歳に及びてテラを生り二五ナホル テラを生し後百十九年生存へて男子女子を生り二六テラ七十歳に及びてアブラムナホルおよびハランを生り二七テラの傳い是なりテラアブラム、ナホルおよびハランを生しハラン、ロトを生り二八ハラン其父テラに先ちて其生處なるカルデアのウルにて死たり二九アブラム

とナホルと妻を娶れりアブラムの妻の名をサライと云ナホルの妻の名をミルカと云てハランの女なりハランハミルカの父にして亦イスカの父なりき三十サライ石女にして子なかりき三一テラカナンの地に往とて其子アブラムとハランの子なる其孫ロト及其子アブラムの妻なる其媳サライをひき挈て倶にカルデアのウルを出たりしがハランに至て其處に住り三二テラの齢ハ二百五歳なりきテラハランにて死り

第十二章

三一　爰にエホバアブラムに言たまひけるハ汝の國を出で汝の親族に別れ汝の父の家を離れて我が汝に示さん其地に至れ二我汝を大なる國民と成し汝を祝み汝の名を大ならしめん汝ハ祉福の基となるべし三我ハ汝を祝する者を祝し汝を詛ふ者を詛ハん天下の諸〻の宗族汝によりて福禔を獲と四アブラム乃ちエホバの自己に言たまひし言に從て出たりロト彼と共に行りアブラムハランを出たる時七十五歳なりき五アブラム其妻サライと其弟の子ロトおよび其集めたる總の所有とハランにて獲たる人衆

六　を擔へてカナンの地に往んとて出で遂にカナンの地に至れり六アブラム其地を經過てシケムの處に及びモレの橡樹に至れり其時にカナン人其地に住り七茲にエホバアブラムに顯現れて我汝の苗裔に此地を與へんといひたまへり彼處にて彼己に顯現れたまひしエホバに壇を築けり八彼其處よりベテルの東の山に移りて其天幕を張り西にベテル東にアイありき彼處にて彼エホバに壇を築きエホバの名を籲りヌ九アブラム倘進て南に遷れり十茲に饑饉其地にありければアブラムエジプトに寄寓らんとて彼處に下れり其饑饉其地に甚しかりければ十一彼近く來りてエジプトに入んとする時其妻サライに言けるは視よ我汝を觀て美麗き婦人なるを知る十二是故にエジプト人汝を見る時是ハ彼の妻なりと言て我を殺さん然ど汝をバ生存ん十三請ふ汝わが妹なりと言へ然バ我汝の故によりて安にしてわが命汝のために生存ん十四アブラムエジプトに至りし時エジプト人此婦を見て甚だ美麗となせり十五またパロの大臣等彼を視て彼をパロの前に擧め

十六 けれバ婦遂にバロの家に召入られたり十六是に於てバロ彼のために厚くア
ブラムを待ひてアブラム遂に羊牛僕　婢牝牡の驢馬および駱駝を多く獲
十七 るに至れり十七時にエホバアブラムの妻サライの故によりて大なる災を
十八 以てバロと其家を惱したまへり十八バロアブラムを召て言けるは汝が我に
十九 なしたる此事ハ何ぞや汝何故に彼が汝の妻なるを我に告ざりしや十九汝何
故に彼ハわが妹なりといひしや我幾彼をわが妻にめとらんとせり然バ汝
二十 の妻ハ此にあり携去るべしと二十バロ即ち彼の事を人々に命じければ彼と
其妻および其有る諸の物を送りさらしめたり

一 第十三章 アブラム其妻および其有る諸の物と倶にエジプトを出て南の地
二 に上れりロト彼と共にありき二アブラム甚家畜と金銀に富り三彼南の
三 地より其旅路に進てベテルとアイの間なる其以前に天幕を
四 張たる處に至れり四即ち彼が初に其處に築きたる壇のある處なり彼處に
五 アブラムエホバの名を籲り五アブラムと偕に行しロトも羊牛および天幕

六 を有り六其地は彼等を載て倶に居しむること能はざりき彼等は其所有多
七 かりしに縁て倶に居ることを得ざりしなり七斯有かバアブラムの家畜の
八 牧者とロトの家畜の牧者の間に競爭ありきカナン人とペリジ人此時其地
九 に居住りハアブラムロトに言けるハ我等ハ兄弟の人なればバ請ふ我と汝の
間およびわが牧者と汝の牧者の間に競爭あらしむる勿れ九地ハ皆爾の前
十 にあるにあらずや請ふ我を離れよ爾若左にゆかバ我右にゆかん又爾右に
ゆかバ我左にゆかんと十是に於てロト目を擧てヨルダンの凡ての低地を
膽望みけるにエホバソドムとゴモラとを滅し給ハざりし前なりければゾ
アルに至るまであまねく善く潤澤ひてエホバの園の如くエジプトの地の
十一 如くなりき十一ロト乃ちヨルダンの低地を盡く撰とりて東に徙れり斯彼等
十二 彼此に別れたり十二アブラムハカナンの地に住り又ロトハ低地の諸邑に住
十三 み其天幕を遷してソドムに至れり十三ソドムの人ハ惡くしてエホバの前に
大なる罪人なりき十四ロトのアブラムに別れし後エホバアブラムに言たま

十五 ひけるハ爾の目を擧て爾の居る處より西東北南を瞻望め十五凡う汝が觀る
十六 所の地ハ我之を永く爾と爾の裔に與べし十六我爾の後裔を地の塵沙の如く
十七 なさん若人地の塵沙を數ふることを得バ爾の後裔も數へらるべし十七爾起
十八 て縱橫に其地を行き巡るべし我之を爾に與へんと十八アブラム遂に天幕を
遷して來りヘブロンのマムレの橡林に住み彼處にてエホバに壇を築けり

第十四章

一 當時シナルの王アムラペル　エラサルの王アリオク、エラムの王
二 ケダラオメルおよびゴイムの王テダル等ニソドムの王ベラ、ゴモラの王ビ
三 ルシヤ、アデマの王シナブ、ゼボイムの王セメベルおよびベラ（即ち今のゾ
四 アル）の王と戰ひをなせり三是等の五人の王皆結合てシデムの谷に至れ
五 り其處ハ今の鹽海なり四彼等ハ十二年ケダラオメルに事へ第十三年に叛
六 けり五第十四年にケダラオメルおよび彼と偕なる王等來りてアシタロテ
カルナイムのレバイム人、ハムのズジ人、シヤベキリアタイムのエミ人六
およびセイル山のホリ人を擊て曠野の傍なるエルパランに至り七彼等歸

八 りてエンミシパラ（即ち今のカデシ）に至りアマレク人の國を盡く擊又ハ
九 ザゾンタマルに住るアモリ人を擊り八爰にソドムの王ゴモラの王アデマ
の王ゼボイムの王およびベラ（即ち今のゾアル）の王出てシデムの谷にて
十 彼等と戰ひを接たり九即ち彼五人の王等エラムの王ケダラオメル、ゴイム
の王テダル、シナルの王アムラペル、エラサルの王アリオクの四人と戰へ
十一 り十シデムの谷にハ地瀝青の坑多りしがソドムとゴモラの王等遁て其處
に陷りぬ其餘の者ハ山に遁逃たり十一是に於て彼等ソドムとゴモラの諸の
十二 物と其諸の食料を取て去れり十二彼等アブラムの姪ロトと其物を取て去り
十三 其ハ彼ソドムに住たれバなり十三玆に遁逃者來りてヘブル人アブラムに之
を告たり時にアブラムハアモリ人マムレの橡林に住りマムレハエシコル
十四 の兄弟又アネルの兄弟なり是等ハアブラムと契約を結べる者なりき十四ア
ブラム其兄弟の擄にせられしを聞しかバ其熟練したる家の子三百十八人
十五 を率ゐてダンまで追いたり十五其家臣を分ちて夜に乘じて彼等を攻め彼等

十六 を撃破りてダマスコの左なるホバまで彼等を追ゆけり十六アブラム斯諸の
十七 物を奪回し亦其兄弟ロトと其物および婦女と人民を取回せり十七アブラム
十八 ケダラオメルおよび彼と偕なる王等を撃破りて歸れる時ソドムの王シヤ
十九 ベの谷(即ち今の王の谷)にて彼を迎へたり十八時にサレムの王メルキゼデ
二十 クバンと酒を攜出せり彼アブラムを祝して言けるい願くい天地の主なる至高神アブラムを祝福みたまへ二十願くい汝
二一 の敵を汝の手に付したまひし至高神に稱譽あれとアブラム乃ち彼に其諸
二二 の物の什分の一を饋れり二一竝にソドムの王アブラムに言けるい人を我に
二三 與へ物を汝に取れと二二アブラムソドムの王に言けるは我天地の主なる至
二四 高き神エホバを指て言ふ二三一本の絲にても鞋帶にても凡て汝の所屬い我
取ざるべし恐くい汝我アブラムを富しめたりと言ん二四但少者の既に食ひ
たる者および我と偕に行し人アネル、エシコルおよびマムレの分を除く
べし彼等にい彼等の分を取しめよ

一 第十五章 是等の事の後エホバの言異象の中にアブラムに臨て曰くアブラ
二 ムよ懼るなかれ我は汝の干櫓なり汝の賚は甚大なるべし二アブラム言
三 けるは主エホバよ何を我に與んとしたまふや我は子なくして居り此ダマ
四 スコのエリエゼル我が家の相續人なり三アブラム又言けるは視よ爾子を
我にたまはず我の家の子わが嗣子とならんとすと四エホバの言彼にのぞ
五 みて曰く此者い爾の嗣子となるべからず汝の身より出る者爾の嗣子とな
るべしと五斯てエホバ彼を外に攜へ出して言たまひけるい天を望みて星
六 を數へ得るかを見よと又彼に言たまひけるは汝の子孫も是のおとくなる
七 べしと六アブラムエホバを信ずエホバこれを彼の義となしたまへり七又
八 彼に言たまひけるは我は此地を汝に與へて之を有たしめんとて汝をカル
九 デアのウルより導き出せるエホバなり八彼言けるは主エホバよ我いかに
十 して我之を有つことを知るべきやル九エホバ彼に言たまひけるい三歳の牝
牛と三歳の牝山羊と三歳の牡羊と山鳩および雛き鴿を我ために取れと十

彼乃ち是等を皆取て之を中より剖き其剖たる者を各相對せしめて置り但
十一 鳥は剖ざりき十一鷙鳥其死體の上に下る時はアブラム之を驅はらへり十二斯
十二 て日の沒る頃アブラム酣く睡りしが其大に暗きを覺えて懼れたり十三時に
十三 エホバアブラムに言たまひけるは汝確に知るべし爾の子孫他人の國に
十四 旅人となりて其人々に服事へん彼等四百年のあひだ之を惱さん十四又其服
十五 事たる國民を我之を鞫かん其後彼等は大なる財貨を携へて出ん十五爾は安
十六 然に爾の父祖の所にゆかん爾は壽齡に達りて葬らるべし十六四代に及びて
十七 彼等此に返りきたらん其はアモリ人の惡未だ貫盈ざればなりと十七斯て日
十八 の沒て黑暗となりし時烟と火爐の出る爐其切剖たる物の中を通過り十八是
日にエホバアブラムと契約をなして言たまひけるは我此地をエジプトの
河より彼大河即ちユフラテ河まで爾の子孫に與ふ十九即ちケニ人ケナズ人
カデモニ人二十ヘテ人ペリジ人レバイム人二一アモリ人カナン人ギルガシ人
エブス人の地是なり

一 第十六章アブラムの妻サライ子女を生ざりき彼に一人の侍女ありしがエ
二 ジプト人にして其名をハガルと曰り二サライアブラムに言けるは視よエ
ホバわが子を生むことを禁めたまひたれば請ふ我が侍女の所に入れ我彼
三 よりして子女を得ることあらんとアブラムサライの言を聽いれたり三アブ
ラムの妻サライ其侍女なるエジプト人ハガルを取て之を其夫アブラム
四 に與へて妻となさしめたり是いアブラムがカナンの地に十年住みたる後
なりき四是においてアブラムハガルの所に入るハガル遂に孕みけれバ己
五 の孕めるを見て其女主を藐視たり五サライアブラムに言けるはわが蒙れ
る害い汝に歸すべし我わが侍女を汝の懷に與へたるに彼己の孕るを見て
六 我を藐視ゝ願いエホバ我と汝の間の事を鞫きたまへ六アブラム、サライ
に言けるは視よ汝の侍女は汝の手の中にあり汝の目に善と見ゆる所を彼
七 に爲すべしサライ乃ち彼を苦めけれバ彼サライの面を避て逃たり七エホ
八 バの使者曠野の泉の旁即ちシユルの路にある泉の旁にて彼に遭ひて八

言けるとサライの侍女ハガルよ汝何處より來れるや又何處に往や彼言け
九 るハ我ハ女主サライの面をさけて逃るなりㇽエホバの使者彼に言けるハ
十 汝の女主の許に返り身を其手に任すべしナエホバの使者又彼に言ひける
十一 ハ我大に汝の子孫を增し其數を衆多して數ふることあたハざらしめんナ二
エホバの使者又彼に言ひけるハ汝孕めり男子を生まん其名をイシマエル
（神聽知）と名くべしエホバ汝の艱難を聽知したまへバなり十二彼ハ野驢馬
十二 の如き人とならん其手ハ諸の人に敵し諸の人の手ハこれに敵すべし彼ハ
其諸の兄弟の東に住んと十三ハガル己に論したまへるエホバの名をアタエ
十三 ルロイ（汝ハ見たまふ神なり）とよべり彼いふ我親たる後尙生るやと十四是
をもて其井ハベエルラハイロイ（我を見る活る者の井）と呼ベる是はカデ
十四 シとベレデの間にあり十五ハガル、アブラムの男子を生めりアブラム、ハガ
十五 ルの生める其子の名をイシマエルと名づけたり十六ハガル、イシマエルを
十六 アブラムに生める時アブラムハ八十六歳なりき

第十七章 アブラム九十九歳の時エホバアブラムに顯れて之に言たまひけ
一 るは我は全能の神なり汝我前に行みて完全かれよ二我わが契約を我と汝
二 の間に立て大に汝の子孫を增さん三アブラム乃ち俯伏たり神又彼に告て言
三 たまひけるハ四我汝とわが契約を立つ汝ハ衆多の國民の父となるべし五
四五 汝の名を此後アブラムと呼ぶべからず汝の名をアブラハム（衆多の人の
六 父）とよぶべし其ハ我汝を衆多の國民の父と爲ベなり六我汝をして衆多
七 の子孫を得せしめ國々の民を汝より起さん王等汝より出べし七我わが契
八 約を我と汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約となし汝
および汝の後の子孫の神となるべし八我汝と汝の後の子孫に此汝が寄寓
する地卽ちカナンの全地を與へて永久の產業となさん而して我彼等の神と
なるべし九神またアブラハムに言たまひけるハ然ベ汝と汝の後の世々の
子孫わが契約を守るべし十汝等の中の男子は咸割禮を受べし是ハ我と汝
等および汝の後の子孫の間の我が契約にして汝等の守るべき者なり十一汝

十二 等其陽の皮を割べし是我と汝等の間の契約の徴なり十二汝等の代々の男子
い家に生れたる者も異邦人より金にて買たる汝の子孫ならざる者も皆生
十三 れて八日に至らば割禮を受べし十三汝の家に生れたる者も汝の金にて買た
る者も割禮を受ざるべからず斯我契約汝等の身にありて永久の契約とな
十四 るべし十四割禮を受ざる男兒即ち其陽の皮を割ざる者い我契約を破るによ
十五 りて其人其民の中より絶るべし十五神又アブラハムに言たまひけるい汝の
十六 妻サライい其名をサライと稱ぶべからず其名をサラと爲べし十六我彼を祝
み彼よりして亦汝に一人の男子をことのごとく授けん我彼を祝み彼をして諸邦の民の
十七 母とならしむべし諸の民の王等彼より出べし十七アブラハム俯伏て哂ひ其
心に謂けるい百歳の人に豈で子の生るることあらんや又サラい九十歳な
十八 れば豈で產ことをなさんやと十八アブラハム遂に神にむかひて願くいイシ
十九 マエルの汝のまへに生存へんことをと曰ふ十九神言たまひけるい汝の妻サ
ラ必ず子を生ん汝其名をイサクと名くべし我彼および其後の子孫と契約

二十 を立て永久の契約となさん二十又イシマ
二一 エルの事に關ては我汝の願を聽た
二二 り視よ我彼を祝みて多衆の子孫を得さしめ大に彼の子孫を增すべし彼十
二三 二の君王を生ん我彼を大なる國民となすべし二一然ども我が契約い我翌年の
今頃サラが汝に生ん所のイサクと之を立べし二二神アブラハムと言ことを
竟へ彼を離れて昇りたまへり二三是に於てアブラハム神の己に言たまへる
如く此日其子イシマエルと凡て其家に生れたる者および凡て其金にて買
たる者即ちアブラハムの家の人の中なる諸の男を將きたりて其陽の皮を
二四 割たり二四アブラハムい其陽の皮を割れたる時九十九歳二五其子イシマエル
二五 い其陽の皮を割れたる時十三歳なりき二六是日アブラハムと其子イシマエ
二六 ル割禮を受たり二七又其家の人家に生れたる者も金にて異邦人より買たる
二七 者も皆彼とともに割禮を受たり

第十八章　一 エホバマムレの橡林にてアブラハムに顯現たまへり彼は日の熱
き時刻天幕の入口に坐したりしが二目を擧て見たるに視よ三人の人其

三 前に立り彼見て天幕の入口より趨り行て之を迎へ身を地に鞠めて言け
るは我が主よ我若汝の目のまへに恩を得たるならば請ふ僕を通り過すな
四 かれ請ふ少許の水を取きたらしめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たま
五 へ我一口のパンを取來らん汝等心を慰めて然る後過ゆくべし汝等僕の
六 所に來れば彼等言ふ汝が言るごとく爲せと是においてアブラハム天
幕に急ぎいりてサラの許に至りて言けるは速に細麪三セヤを取り揑て
七 パンを作るべしと而してアブラハム牛の群に趨ゆき犢の柔にして善き
者を取りきたりて少者に付しければ急ぎて之を調理ふ
八 かくてアブラハム牛酪と牛乳および其調理へたる犢を取て彼等のまへに供へ樹の下にて
九 其側に立り彼等乃ち食へり
十 彼等アブラハムに言けるは爾の妻サラは何處にあるや彼言ふ天幕にあり
十一 其一人言ふ明年の今頃我必ず爾に返るべし汝の妻サラに男子あらんサラ其後なる天幕の入口にありて聞るたり
十二 抑アブラハムとサラは年邁み老いたる者にしてサラには婦人の常の經

十二 已に息たり
十三 是故にサラ心に哂ひて言けるは我は老衰へ吾が主も亦老たる後なれば我に樂あるべけんや
十四 エホバアブラハムに言たまひけるは何故にサラは哂ひて我老たれば果して子を生ことあらんやと言ふや
十五 エホバに豈爲し難き事あらんや時至らば我定めたる時に爾に歸るべしサラに男子あらんと
十六 サラ懼れたれば承ずして我哂はずと言へりエホバ言たまひけるは否汝哂へるなり
十七 斯て其人々彼處より起てソドムの方を望みければアブラハム彼等を送らんとて俱に行り
十八 エホバ言ひ給けるは我爲んとする事をアブラハムに隱すべけんや
十九 アブラハムは必ず大なる强き國民となりて天下の民皆彼に由て福を獲に至るべきに在ずや
二十 其は我彼を
二十一 して其後の兒孫と家族とに命じエホバの道を守りて公義と公道を行しめん爲に彼をしれり是エホバアブラハムに其曾て彼に就て言し事を行はん爲なり
二十二 エホバ又言給ふソドムとゴモラの號呼大なるに因り又其罪甚だ重に因て
二十三 我今下りて其號呼の我に達れる如くかれら全く行ひたりしや

二二 を見んとす若しからずバ我知るに至らんと
二三 三其人々其處より身を旋してソドムに赴むけりアブラハムは尚ほエホバのまへに立り
二四 三アブラハム近よりて言けるハ爾は義者をも惡者と俱に滅ぼしたまふや
二五 二四若邑の中に五十人の義者あるも汝尚は其處を滅ぼし其中の五十人の義者のために
二六 これを恕したまはざるや二五なんぢ斯の如く爲て義者を惡者と俱に殺すが如きハ是あるまじき事なり又義者と惡者を均等するが如きもあるまじき事なり天下を鞫く者ハ公義を行ふ可にあらずや二六エホバ言たまひけるハ我若ソドムに於て邑の中に五十人の義者を看バ其人々のために其處を盡く恕さん二七アブラハム應へていひけるハ我ハ塵と灰なれども敢て我主に言上す二八若五十人の義者の中五人缺たらんに爾五人の缺たるために邑を盡く滅ぼしたまふやエホバ言たまひけるハ我若彼處に四十五人を看バ滅さるべし二九アブラハム又重てエホバに言上して曰けるは若彼處に四十人看えなバ如何エホバ言たまふ我四十人のために之をなさじ三十アブラハム曰

三一 ひけるハ請ふわが主よ怒らずして言しめたまへ若彼處に三十人看えなバ
三二 如何エホバいひたまふ我三十人を彼處に看バ之を爲じ三二アブラハム言ふ
二十人のためにはほろぼさじ三三アブラハム言ふ我わへてわが主に言上す若彼處に二十人看ゑなバ如何エホバ言たまふ我
度言しめたまへ若かしこに十人看えなバ若何エホバ言たまふ我十人のために
はほろぼさじ三三エホバアブラハムと言ふことを終てゆきたまへりアブラハムハおのれの所にかへりぬ

第十九章 其二個の天使黄昏にソドムに至るロト時にソドムの門に坐し居たりしがこれを覩起て迎へ首を地にさげて二言けるハ我主よ請ふ僕の家に臨み足を濯ひて宿りつとに起て途に遄征たまへ彼等言ふ否我等ハ街衢に宿らんと三然ど固く强けれバ遂に彼の所に臨みて其家に入るロト乃ち彼等のために筵を設け酵いれぬパンを炊て食いしめたり四斯て未だ寢ざる前に邑の人々即ちソドムの人老たるも若きも諸共に四方八方より來た

五 れる民皆其家を環み五ロトを呼て之に言けるハ今夕爾に就たる人ハ何處
六 にをるや彼等を我等の所に携へ出せ我等之を知らん六ロト入口に出て其
七 後の戸を閉ぢ彼等の所に至りて七言けるハ請ふ兄弟よ惡き事を爲すなか
八 れ八我に未だ男知ぬ二人の女あり請ふ我之を携へ出ん爾等の目に善と見
ゆる如く之になせよ惟此人等ハ既に我家の蔭に入たれバ何をも之になす
九 なかれ九彼等曰ふ爾退け又言けるハ此人ハ來り寓れる身なるに恒に士師
十 とならんとす然バ我等彼等に加ふるよりも多くの害を爾に加へんと遂に
彼等酷しく其人ロトに逼り前より十進み
十一 舒しロトを家の內に援いれて其戸を閉ぢ十一家の入口にをる人衆をして大
十二 なるも小も倶に目を眩しめけれバ彼等遂に入口を索ぬるに困憊たり十二斯
て二人ロトに言けるは外に爾に屬する者ありや汝の婿子女および凡て邑
十三 にをりて爾に屬する者を此所より携へ出べし十三此處の號呼ヱホバの前に
大になりたるに因て我等之を滅さんとすヱホバ我等を遣ハして之を滅さ

十四 しめたまふ十四ロト出て其女を娶る婿等に告て言けるハヱホバ邑を滅した
十五 まふべければ爾等起て此處を出よと然ど婿等ハ之を戲言と視爲り十五曉に
及て天使ロトを促して言けるハ起て此なる爾の妻と二人の女を攜へよ
十六 恐くハ爾邑の惡とゝもに滅されん十六然るに彼遲延ひしかバ二人其手と其
妻の手と其二人の女の手を執て之を導き出し邑の外に置りヱホバ斯彼に
十七 仁慈を加へたまふ十七既に之を導き出して其一人曰けるハ逃遁て汝の生命
を救へ後を回顧るなかれ低地の中に止るなかれ山に遁れよ否ずバ爾滅さ
十八 れん十八ロト彼等に言けるハわが主よ請ふ斯したまふなかれ十九視よ僕爾の
十九 目のまへに恩を得たり爾大なる仁慈を吾に施してわが生命を救たまふ吾
山に遁る能ず恐くハ災害身に及びて死るにいたらん二十視よ此邑ハ遁ゆく
二十 に近くして且小し我をして彼處に遁れしめよ乞からバ吾生命全からん是
ハ小き邑なるにあらずや二一天使之にいひけるハ視よ我此事に關ても亦爾
二一 の願を容たれバ爾が言ふところの邑を滅さじ二二急ぎて彼處に遁れよ爾が

彼處に至るまでゐ我何事をも爲を得ずと是に因て其邑の名ゐゾアル（小
し）と稱る　二三ロト　ゾアルに至れる時日地の上に昇れり　二四エホバ硫黄と火
を主ホバの所より即ち天よりソドムとゴモラに雨しめ　二五其邑と低地と其
邑の居民および地に生るところの物を盡く滅したまへり　二六ロトの妻は後
を回顧たれバ鹽の柱となりぬ　二七アブラハム其朝夙に興て其嘗てエホバの
前に立たる處に至り　二八ソドム、ゴモラおよび低地の全面を望み見るに其
地の烟焰窖の烟のごとくに騰上れり　二九神低地の邑を滅したまふ時即ちロ
トの住る邑を滅したまふ時に當り神アブラハムを眷念て斯其滅亡の中よ
りロトを出したまへり　三十斯てロトゾアルに居ることを懼れたれバ其二人
の女と偕にゾアルを出て上りて山に居り其二人の女子とゝもに巖穴に住
り　三一姉に長女季女にいひけるゐ我等の父は老いたり又此地にゐ我等に偶
て世の道を成す人あらず　三二然バ我等父に酒を飲せて與に寢ね父に由て子
を得んと　三三遂に其夜父に酒を飲せ長女入て其父と與に寢たり然るにロト

ゐ女の起臥を知ざりき　三四翌日長女季女に言けるは我昨夜わが父と寢たり
我等此夜又父に酒をのません爾入て與に寢よわれらの父に由て子を得る
ことをえんと　三五乃ち其夜も亦父に酒をのませ季女起て父と與に寢たりロ
トまた女の起臥を知ざりき　三六斯ロトの二人の女其父によりて孕みたり　三七
長女子を生み其名をモアブと名く即ち今のモアブ人の先祖なり　三八季女も
亦子を生み其名をベニアンミと名く即ち今のアンモニ人の先祖なり

第二十章　アブラハム彼處より徙りて南の地に至りカデシとシユルの間に
居りゲラルに寄留りニアブラハム其妻サラを我妹なりと言しかバゲラル
の王アビメレク人を遣してサラを召入たり　三然るに神夜の夢にアビメレ
クに臨みて之に言たまひけるゐ汝ゐ其召入たる婦人のために死るなるべ
し彼は夫ある者なれバなり　四アビメレク未だ彼に近づかざりしかバ言ふ
主よ汝は義き民をも殺したまふや　五彼は我に是えわが妹なりと言しにあ
らずや又婦も自彼いわが兄なりと言たり我全き心と潔き手をもて此をな

六 せりヽ神又夢に之に言たまひけるハ然り我汝が全き心をもて之をなせる
を知りたれバ我も汝を阻めて罪を我に犯さしめざりき彼に觸るを容ざり
七 玆は是がためなりヽ然バ彼の妻を歸せ彼は預言者なれバ汝のために祈り
汝をして生命を保玆めん汝若歸ずバ汝と汝に屬する者皆必死るべきを知
八 るべしハ是に於てアビメレク其朝夙に興て臣僕を悉く召し此事を皆語り
九 聞せけれバ人々甚く懼れたりヽ斯てアビメレクアブラハムを召て之に言
十 けるハ爾我等に何を爲すや我何の惡き事を爾になしたれバ爾大なる罪を
我とわが國に蒙らしめんとせしか爾爲べからざる所爲を我に爲したりヽ
十一 アビメレク又アブラハムに言けるハ爾何を見て此事を爲たるやヽ
十二 ハム言けるハ我此處にかならず神を畏れざるべけれバ吾妻のために人我
を殺さんと思ひたるなりヽ又彼ハ誠にわが妹なり彼はわが父の子にして
十三 わが母の子にあらざるが遂に我妻となりたるなりヽ神我をして吾父の家
を離れて周遊しめたまへる時に當て我彼に爾我等が至る處にて我を爾の

十四 兄なりと言へ是ハ爾が我に施す恩なりと言たりヽ十四アビメレク乃ち羊牛
僕婢を將てアブラハムに與へ其妻サラを之に歸せり十五而してアビメレク
十五 言けるハ視よ我地ハ爾のまへにあり爾の好むところに住め十六又サラに言
十六 けるハ視よ我爾の兄に銀千枚を與へたり是ハ爾および諸の人にわりし事
等につきて爾の目を蔽ふ者なり斯爾償贖を得たりヽ十七是に於てアブラハム
十七 神に祈りけれバ神アビメレクと其妻および婢を醫したまひて彼等子を產
むにいたる十八エホバさきにハアブラハムの妻サラの故をもてアビメレク
十八 の家の者の胎をことごとく閉たまへり

第二十一章

一 エホバ其言し如くサラを眷顧みたまふ卽ちエホバ其語しおと
二 くサラに行ひたまひしかバニサラ遂に孕み神のアブラハムに語たまひし
三 期日に及びて年老たるアブラハムに男子を生りヽ三アブラハム其生れたる
子卽ちサラが己に生る子の名をイサクと名けたりヽ四アブラハム神の命じ
四 たまひし如く八日に其子イサクに割禮を行へりヽ五アブラハムは其子イサ

六 ク|の生れたる時百歳ありき六サラ言けるハ神我を笑ハしめたまふ聞く者
七 皆我とゝもに笑ハん七又曰けるハ誰かアブラハムにサラ子女に乳を飲し
むるにいたらんと言しものあらん然に彼が年老るに及びて男子を生たり
八 と八偖其子長育ちて遂に乳を斷るイサクの乳を斷るゝ日にアブラハム大
九 なる饗宴を設けたり九時にサラエジプト人ハガルがアブラハムに生たる
十 子の笑ふを見て十アブラハムに言けるハ此婢と其子を逐出せ此婢の子は
十一 吾子イサクと共に嗣子となるべからざるなりと十一アブラハム其子のため
十二 に甚く此事を憂たり十二神アブラハムに言たまひけるハ童兒のため又汝の
婢のために之を憂るなかれサラが汝に言ところの言ハ悉く之を聽け其い
十三 イサクより出る者汝の裔と稱らるべければなり十三又婢の子も汝の胤なれ
十四 ば我之を一の國となさん十四アブラハム朝夙に興てパンと水の革嚢とを取
りハガルに與へて之を其肩に負せ其子を擔へて去しめければ彼往てベエ
十五 ルシバの曠野に躑躅しが十五革嚢の水遂に罄たれば子を灌木の下に置き十六

十七 我子の死るを見るに忍ずといひて遙かに行き箭達を隔てゝ之に對ひ坐し
十八 ぬ斯相嚮ひて坐し聲をあげて泣く十七神其童兒の聲を聞たまふ神の使卽ち
天よりハガルを呼て之に言けるハハガルよ何事ぞや懼るゝなかれ神彼處
十九 にをる童兒の聲を聞たまへり十八起て童兒を興し之を汝の手に抱くべし我
之を大なる國となさんと十九神ハガルの目を開きたまひければ水の井ある
二十 を見ゆきて革嚢に水を充し童兒に飲しめたり二十神童兒と偕に在す彼遂に
二一 成長り曠野に居りて射者となり二一パランの曠野ゐ住り其母彼のためエ
二二 ジプトの國より妻を迎へたり二二當時アビメレクと其軍勢の長ピコルアブ
二三 ラハムに語て言けるハ汝何事を爲ゐも神汝とゝもゐ在す二三然ば汝が我と
わが子とわが孫に僞をなさゞらんことを今此ゐ神をさして我ゐ誓へ我が
二四 厚情をもて汝をあつかふごとく汝我と此汝が寄留る地とに爲べし二四アブ
二五 ラハム言ふ我誓ハん二五アブラハムアビメレクの臣僕等が水の井を奪ひた
る事につきてアビメレクを責ければ二六アビメレク言ふ我誰が此事を爲し

二七 を知ず汝我に告しこと无く又我今日まで聞しことなし二七アブラハム乃ち
二八 羊と牛を取て之をアビメレクに與ふ斯て二人契約を結べり二八アブラハム
二九 牝の羔七を分ち置けれバ二九アビメレク アブラハムに言ふ汝此七の牝の
三十 羔を分ちおくい何のためなるや三十アブラハム言けるい汝わが手より此七
の牝の羔を取りて我が此井を掘たる証據とならしめよと彼等二人彼處に
三一 誓ひ玄により三一其處をベエルシバ(盟約の井)と名けたり三二斯彼等ベエ
三二 ルシバにて契約を結びアビメレクと其軍勢の長ピコルい起てペリシテ人
三三 の國に歸りぬ三三アブラハムベエルシバに柳を植ゑ永遠に在す神エホバの
三四 名を彼處に籲り三四斯してアブラハム久くペリシテ人の地に留寄りぬ

第二十二章 是等の事の後神アブラハムを試みんとて之をアブラハムよと
一 呼たまふ彼言ふ我此にあり二エホバ言たまひけるは爾の子爾の愛する獨
二 子即ちイサクを携てモリアの地に到りわが爾に示さんとする彼所の山に
於て彼を燔祭として獻ぐべし三アブラハム朝夙に興て其驢馬に鞍おき二
三 人の少者と其子イサクを携へ且燔祭の柴薪を劈りて起て神の己に示した
四 まへる處におもむきけるが四三日におよびてアブラハム目を擧て遙に其
五 處を見たり五是に於てアブラハム其少者に言けるい爾等い驢馬とともに
此に止れ我と童子い彼處にゆきて崇拜を爲し復爾等に歸ん六アブラハム
六 乃ち燔祭の柴薪を取て其子イサクに負せ手に火と刀を執て二人ともに往
七 りしイサク父アブラハムに語て父よと曰ふ彼答て子よ我此にありといひ
けれバイサク卽ち言ふ火と柴薪い有り然ど燔祭の羔い何處にあるやハア
八 ブラハム言けるい子よ神自ら燔祭の羔を備へたまわんと二人偕に進みゆ
九 きて九遂に神の彼に示したまへる處に到れり是においてアブラハム彼處
に壇を築き柴薪を臚列べ其子イサクを縛りて之を壇の柴薪の上に置せた
十 り十斯してアブラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰んとす十一時にエホバ
十一 の使者天より彼を呼てアブラハムよアブラハムよと言へり彼言ふ我此に
十二 あり十二使者言けるは汝の手を童子に按るなかれ亦何をも彼に爲べからず

汝の子即ち汝の獨子をも我ために惜まざれバ我今汝が神を畏るを知ると
十三 茲にアブラハム目を擧て視れバ後に牡綿羊ありて其角林叢に繫りたり
アブラハム即ち往て其牡綿羊を執へ之を其子の代に燔祭として献げたり
十四 アブラハム其處をエホバエレ（エホバ預備たまわん）と名く是に縁て今
日もなほ人々山にエホバ預備たまわんといふ 十五 エホバの使者再天より
アブラハムを呼て 十六 言けるはエホバ諭したまふ我己を指て誓ふ汝是事を
爲し汝の子即ち汝の獨子を惜まざりしに因て 十七 我大に汝を祝み又大に汝
の子孫を増して天の星の如く濱の砂の如くならしむべし汝の子孫ハ其敵
の門を獲ん 十八 又汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし汝わが言に遵
ひたるによりてなりと 十九 斯てアブラハム其少者の所に歸り皆たちて偕に
ベエルシバにいたれりアブラハムハベエルシバに住り 二十 是等の事の後ア
ブラハムに告る者ありて言ふミルカ亦汝の兄弟ナホルにしたがひて子
を生り 二一 長子はウヅ其弟ハブズ其次はケムエル是はアラムの父なり 二二
其次はケセデ ハゾ ピルダシ エデラフ ベトエル 二三 ベトエルはリベオを生
り是八人ハミルカがアブラハムの兄弟ナホルに生たる者なり 二四 ナホルの
妾名ハルマといふ者も亦テバ ガハム タハシ およびマアカを生り

第二十三章 サラ百二十七歳なりき是即ちサラの齡の年なり 二 サラ キリア
テアルバにて死り是はカナンの地のヘブロンなりアブラハム至りてサラ
のために哀み且哭り 三 斯てアブラハム死人の前より起ち出てヘテの子孫
に語りて言けるハ 四 我ハ汝等の中の寓旅なり寄居者なり請ふ汝等の中に
て我に墓地を與へて吾が所有となし我をして吾が死人を出し葬ることを
得せしめよ 五 ヘテの子孫アブラハムに應て之に言ふ 六 我主よ我等に聽た
まへ我等の中にありて汝ハ神の如き君なり我等の墓地の佳者を擇みて汝
の死人を葬れ我等の中一人も其墓地を汝にをしみて汝をしてうの死人を
葬らしめざる者なかるべし 七 是に於てアブラハム起ち其地の民ヘテの子
孫に對て躬を鞠む 八 而して彼等と語ひて言けるハ若我をしてわが死人を

九 出し葬るを得せしむる事汝等の意ならば請ふ我に聽て吾ためにゾハルの
子エフロンに求め九彼をして其野の極端に有るマクペラの洞穴を我に與
へしめよ彼其十分の値を取て之を我に與へ汝等の中にてわが所有なる墓
十 地となさば善し十時にエフロンヘテの子孫の中に坐しゐたりヘテ人エフ
ロンヘテの子孫即ち凡て其邑の門に入る者の聽る前にてアブラハムに應
十一 へて言けるは十一吾主よ我に聽たまへ其野は我汝に與ふ又其中の洞穴も我
十二 之を汝に與ふ我吾民なる衆人の前にて之を汝にあたふ汝の死人を葬れ十二
十三 是に於てアブラハム其地の民の前に躬を鞠めたり十三而して彼其地の民の
聽る前にてエフロンに語りて言けるは汝若之を肯はゞ請ふ吾に聽け我其
十四 野の値を汝に償はん汝之を吾より取れ我わが死人を彼處に葬らん十四エフ
十五 ロンアブラハムに答て曰けるは十五わが主よ我に聽たまへ彼地は銀四百シ
十六 ケルに當る是は我と汝の間に豈道に足んや然ば汝の死人を葬れ十六アブラ
ハムエフロンの言に從ひエフロンがヘテの子孫の聽る前にて言たる所の

十七 銀を秤り商賈の中の通用銀四百シケルを之に與へたり十七マムレの前なる
マクペラに在るエフロンの野は野も其中の洞穴も野の中と其四周の堺に
十八 ある樹も皆十八ヘテの子孫の前即ち凡て其邑に入る者の前にてアブラハム
十九 の所有と定りぬ十九厥後アブラハム其妻サラをマムレの前なるマクペラの
二十 野の洞穴に葬れり是即ちカナンの地のヘブロンなり二十斯く其野と其中の
洞穴はヘテの子孫之をアブラハムの所有なる墓地と定めたり

第二十四章

一 アブラハム年邁て老たりヱホバ萬の事に於てアブラハムを祝
二 みたまへり二茲にアブラハム其凡の所有を宰る其家の年邁なる僕に言け
三 るは請ふ爾の手を吾髀の下に置よ三我爾をして天の神地の神ヱホバを指
て誓はしめん即ち汝わが偕に居むカナン人の女の中より吾子に妻を娶る
四 なかれ四汝わが故國に往き吾親族に到りて吾子イサクのために妻を娶れ
五 五僕彼に言けるは倘女我に從ひて此地に來ることを好まざる事あらん時
六 は我爾の子を彼汝が出來りし地に導き歸るべきか六アブラハム彼にいひ

七 けるゐ汝愼みて吾子を彼處に携かへるなかれ七天の神エホバ我を導きて
吾父の家とわが親族の地を離れしめ我に語り我に誓ひて汝の子孫に此地
を與へんと言たまひし者其使を遣して汝に先たしめたまわん汝彼處より
八 我子に妻を娶るべし八若女汝に從ひ來る事を好ざる時ゐ汝吾此誓を解る
べし唯我子を彼處に携へかへるなかれ九是に於て僕手を其主人アブラハ
九 ムの髀の下に置て此事について彼に誓へり十斯て僕其主人の駱駝の中よ
十 り十頭の駱駝を取りて出たてり即ち其主人の諸の佳物を手にとりて起て
メソポタミアに往きナホルの邑に至り十一其駱駝を邑の外にて井の傍に跪
十一 伏しめたり其時ゐ黄昏にて婦女等の水汲にいづる時なりき十二斯して彼言
十二 けるゐ吾主人アブラハムの神エホバよ願くゐ今日我にろの者を逢しめわ
が主人アブラハムに恩惠を施したまへ十三我この水井の傍に立ち邑の人の
十三 女等水を汲に出づ十四我童女に向ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我にのまし
めよと言んに彼答へて飲め我また汝の駱駝にも飲しめんと言ば彼ゐ汝が

十五 僕イサクの爲に定め給ひし者なるべし然れば我汝の吾主人に恩惠を施し
給ふを知らん十五彼語ふことを終るまへに視よリベカ瓶を肩にのせて出き
たる彼ゐアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルに生れたる者
十六 なり十六其童女ゐ觀に甚だ美しく且處女にして未だ人に適しことあらず彼
十七 井に下り其瓶に水を盈て上りしかば十七僕はせゆきて之にあひ請ふ我をし
十八 て汝の瓶より少許の水を飲しめよといひけるに十八彼主よ飲たまへといひ
十九 て乃ち急ぎ其瓶を手におろして之にのましめたりしが十九飲せをはりて言
ふ汝の駱駝のためにも其飲をゐるまで水を汲て飽しめん二十急ぎて其瓶を
二十 水鉢にあけ又汲んとて井にはせゆき其諸の駱駝のために汲みたり二一其人
二一 之を見つめエホバが其途に幸福をくだしたまふや否をしらんとして默し
二二 居たり二二竪に駱駝飲をゐりしかば其人重半シケルの金の鼻環一箇と重十
二三 シケルの金の手釧二箇をとりて二三言ひけるゐ汝ゐ誰の女なるや請ふ我に
告よ汝の父の家に我等が宿る隙地ありや二四女彼にいひけるゐ我ゐミルカ

がナホルに生みたる子ベトエルの女なり二五又彼にいひけるは家にわら藁も
二六 飼草も多くあり且宿る隙地もあり二六是に於て其人伏てエホバを拜み二七言
けるは吾主人アブラハムの神エホバは讃美べきかなわが主人に慈惠と眞
實とを缺きたまはず我途にありしにエホバ我を吾主人の兄弟の家にみち
びきたまへり二八茲に童女走行て其母の家に此等の事を告たり二九リベカに
一人の兄あり其名をラバンといふラバンはせいで井にゆきて其人の許に
つく三十すなはち彼鼻環および其妹の手の手釧を見又其妹リベカが其人
斯我に語りといふを聞て其人の所に到り見るに井の側らにて駱駝の傍に
たちゐたれば三一之に言けるは汝エホバに祝るゝ者よ請ふ入れ奚ぞ外にた
つや我家を備へ且駱駝のために所をうなへたり三二是に於て其人家にいり
ぬラバン乃ち其駱駝の負を釋き藁と飼草を駱駝にあたへ又水をあたへて
其人の足と其從者の足をあらはしめ三三斯して彼の前に食をうなへたるに
彼言ふ我わが事をのぶるまでわ食はじとラバン語れといひければ三四彼

言ふわれわアブラハムの僕なり三五エホバ大にわが主人をめぐみたまひて
大ある者とならしめ又羊牛金銀僕婢駱駝驢馬をこれにたまへり三六わが
主人の妻サラ年老てのちわが主人に男子をうみければ主人其所有を悉く
之に與ふ三七わが主人我を誓せて言ふ吾すめるカナンの地の人の女子の中
よりわが子に妻を娶るなかれ三八汝わが父の家にゆきわが親族にいたりわ
が子のために妻をめとれと三九我わが主人にいひけるわ倘女我にしたがひ
て來ずば如何四十彼我にいひけるわ吾事ふるところのエホバ其使者を汝と
ともに遣わして汝の途に幸福を降したまわん爾わが親族わが父の家より
吾子に妻をめとるべし四一汝わが親族に到れる時わが誓を解さるべし若
彼等汝にあたへずば汝わが誓をゆるさるべしと四二我今日井に至りて謂
けらくわが主人アブラハムの神エホバねがわくわがゆく途に幸福を降
したまへ四三我わこの井水の傍に立つ水を汲にいづる處女あらん時我彼に
むかひて請ふ汝の瓶より少許の水を我にれましめよと言んに四四若我に答

へて汝飲め我亦汝の駱駝のために
四五 も汲んと言ふ是エホバがわが主人の子
のために定たまひし女なるべし
四五 我心の中に語ふことを終るまへにリベ
カ其瓶を肩にのせて出來り井にくだりて水を汲みたるにより我彼に請ふ
四六 我にのましめよと言ければ四六彼急ぎ其瓶を肩よりおろしていひけるゐ飲
めまた汝の駱駝にものましめんと是に於て我飲しが彼また駱駝にものま
四七 しめたり四七我彼に問て汝ゐ誰の女なるやといひければミルカがナホルに
生たる子ベトエルの女なりといふ是に於て我其鼻に環をつけ其手に手釧
四八 をつけたり四八而して我伏てエホバを拜み吾主人アブラハムの神エホバを
頌美たりエホバ我を正き途に導きてわが主人の兄弟の女を其子のために
四九 娶しめんとしたまへばなり四九されば汝等若わが主人にむかひて慈恵と眞
誠をもて事をなさんと思ふ我に告よ然ざるも亦我に告よ然ば我右か左
五十 におもむくをえん五十ラバンとベトエル答て言けるは此事ゐエホバより出
づ我等汝に善惡を言ふあたはず五一視よリベカ汝の前にをる携へてゆき彼

五二 をしてエホバの言たまひし如く汝の主人の子の妻とならしめよ五三アブラ
五三 ハムの僕彼等の言を聞て地に伏てエホバを拜めり五三是に於て僕銀の飾品
金の飾品および衣服をとりいだしてリベカに與へ亦其兄と母に寶物をわ
五四 たへたり五四是に於て彼および其從者等食飲して宿りしが朝興たる時彼言
五五 我をして吾主人に還らしめよ五五リベカの兄と母言けるゐ童女を數日の間
五六 少くも十日我等と偕にをらしめよ云かるのち彼ゆくべし五六彼人之に言エ
ホバ吾途に福祉をくだしたまひたるなれば我を阻むるなかれ我を歸して
五七 五八 わが主人に往しめよ五七彼等いひけるゐ童女をよびて其言を問んと五八卽ち
五九 リベカを呼て之に言けるゐ汝此人と共に往や彼言ふ往ん五九是に於て彼等
六十 妹リベカと其乳媼およびアブラハムの僕と其從者を遣り去しめたり六十
卽ち彼等リベカを祝して之にいひけるゐわれらの妹よ汝千萬の人の母と
なれ汝の子孫をして其仇の門を獲しめよ六一是に於てリベカ起て其童女等
六一 ともに駱駝にのりて其人にしたがひ往く僕乃ちリベカを導きてさりぬ

六二 六三 茲にイサクはハイロイの井の路より來れり南の國に住居たれバなり六三
六四 六五 玄かしてイサク黄昏に野に出て默想をなしたりしが目を擧て見しに駱駝
の來るあり六四リベカ目をあげてイサクを見駱駝をおりて六五僕にいひける
六六 六七 は野をあゆみて我等にむかひ來る者ハ何人なるや僕わが主人なりといひ
けれバリベカ覆衣をとりて身をおほへり六六茲に僕其凡てなしたる事をイ
サクに告ぐ六七イサクリベカを其母サラの天幕に携至りリベカを娶りて
其妻となして之を愛したりイサクハ母にわかれて後茲に慰藉を得たり

一 二 **第二十五章** アブラハム再妻を娶る其名をケトラといふ二彼ジムランヨ
三 四 クシヤンメダンミデアンイシバクシユワを生りヨクシヤンシバと
デダンを生むデダンの子ハアッシユリ族レトシ族リウミ族なり四ミデア
五 ンの子ハエバエペルヘノクアビダエルダアなり是等ハ皆ケトラの子孫
なり五アブラハム其所有を盡くイサクに與へたり六アブラハムの妾等の
子にハアブラハム其生る間に物をわたへて之をして其子イサクを離れて

七 八 九 十 東にさりて東の國に至ら玄む七アブラハムの生存へたる齡の日ハ即ち百
七十五年なりき八アブラハム遐齡に及び老人となり年滿て氣たへ死て其
民に加る九其子イサクとイシマエル之をヘテ人ゾハルの子エフロンの野
なるマクペヲの洞穴に葬れり是ハマムレの前にあり十即ちアブラハムが
ヘテの子孫より買たる野なり彼處にアブラハムと其妻サラ葬らる十一アブ
ラハムの死たる後神其子イサクを祝みたまふイサクハベエルラハイロ
イの邊に住り十二サラの侍婢なるエジプト人ハガルがアブラハムに生たる
子イシマエルの傳ハ左のごとし十三イシマエルの子の名ハ其名氏と其世代
に循ひて言バ是のごとしイシマエルの長子ハ子バヨテなり其次ハケダル
アデビエルミブサム十四ミシマドママッサ十五ハダデマエトルテフシ
ケデマ十六是等ハイシマエルの子なり是等ハ其鄉黨と其營にをたがひて言
る者にして其國に循ひていへバ十二の牧伯なり十七イシマエルの齡は百三
十七歳なりき彼いきたえ死て其民にくわゝる十八イシマエルの子等はハビ

ラよりエジプトの前なるシユルまでの間に居住てアッスリヤまでにおよべりイシマエルい其すべての兄弟等のまへにすめり十九アブラハムの子イサクの傳ㇾ左のごとしアブラハムイサクを生り二十イサク四十歳にしてリベカを妻に娶れりリベカはパダンアラムのスリア人ベトエルの女にしてスリア人ラバンの妹なり二一イサク其妻の子あさに因て之がためにエホバに祈願をたてけれバエホバ其ねがひを聽たまへり遂に其妻リベカ孕みしが二二其子胎の內に爭うひけれバ然らバ我いかで斯てあるべきと言て往てエホバに問に二三エホバ彼に言たまひけるい二の國民汝の胎にあり二の民汝の腹よりいでゝ別れん一の民は一の民よりも强かるべし大い小に事へんと二四かくて臨月みちて見よに胎にい孿ありき二五先に出たる者い赤くして躰中　裘の如し其名をエサウと名けたり二六其後に弟出たるが其手にエサウの踵を持り其名をヤコブとなづけたりリベカが彼等を生し時イサクは六十歳なりき二七茲に童子人となりしがエサウい巧ある獵人にして野の人となりヤコブい質樸なる人にして天幕に居ものとなれり二八イサクは麞を嗜によりてエサウを愛したりしがリベカはヤコブを愛したり二九茲にヤコブ羹を煮たり時にエサウ野より來りて憊れ居り三十エサウヤコブにむかひ我憊れたれば請ふ其紅羹其處にある紅羹を我にのませよといふ是を以て彼の名はエドム（紅）と稱らる三一ヤコブ言けるい今日汝の家督の權を我に鬻れ三二エサウいふ我は死んとして居る此家督の權我に何の益をなさんや三三ヤコブまた言けるは今日我に誓へと彼すおいち誓て其家督の權をヤコブに鬻ぬ三四是に於てヤコブパンと扁豆の羹とをエサウに與へけれバ食且飲て起て去り斯エサウ家督の權を藐視じたり

第二十六章　アブラハムの時にありし最初の饑饉の外に又其國に饑饉ありけれバイサクゲラルに往てペリシテ人の王アビメレクの許にいたれり二時にエホバ彼にあらわれて言たまひけるいエジプトに下るなかれ吾汝に示すところの地にをれ三汝此地にとゞまれ我汝と共にありて汝を祝まん

四 我是等の國を盡く汝および汝の子孫に與へ汝の父アブラハムに誓ひたる
誓言を行ふべし 四我汝の子孫を增て天の星のごとくなし汝の子孫に凡て
五 是等の國を與へん汝の子孫によりて天下の國民皆福祉を獲べし 五是はア
ブラハムわが言に順ひわが職守とわが誡命とわが憲法とわが律法を守り
六 しに因てなり 六イサク乃ちゲラルに居しが 七處の人其妻の事をとへば我
七 妹なりと言ふリベカの美麗かりければ其處の人リベカの故をもて我
を殺さんと謂て彼をわが妻と言をおうれたるなり 八イサク久く彼處にを
八 りし後一日ペリシテ人の王アビメレク牖より望みてイサクが其妻リベカ
九 と嬉戲るを見たり 九是に於てアビメレク イサクを召て言けるは彼は必
ず汝の妻なり汝なんぞ吾妹といひしやイサク彼に言けるは恐くは我彼の
十 ために死るならんと思たればなり 十アビメレクいひけるは汝なんぞ此事
を我等になすや民の一人もし輕々しく汝の妻と寢ることわらんうの時は
十一 汝罪を我等に蒙らしめんと 十一アビメレク乃ちすべて民に皆命じて此人と

十二 其妻にさわるものは必ず死すべしと言り 十二イサク彼地に種播て其年に百
十三 倍を獲たりエホバ彼を祝みたまふ 十三其人大になりゆきて進て盛になり遂
十四 に甚だ大なる者となれり 十四卽ち羊と牛と僕從を多く有しかばペリシテ人
十五 彼を嫉みたり 十五其父アブラハムの世に其父の僕從が掘たる諸の井はペリ
十六 シテ人之をふさぎて土を之にみてたり 十六茲にアビメレクイサクに言ける
十七 は汝はわれ我等をはなれて去れと 十七イサク乃ち彼
十八 處をさりてゲラルの谷に天幕を張て其處に住り 十八其父アブラハムの世に
掘たる水井をイサク茲に復び鑿り其はアブラハムの死たる後ペリシテ人
之を塞ぎたれば然なり斯してイサク其父が之に名けたる名をもて其名とな
十九 せり 十九イサクの僕谷に掘て其處に泉の湧出る井を得たり 二十ゲラルの牧者
二十 此水はわれ我等の所屬なりといひてイサクの僕と爭ひければイサク其井の名
二一 をエセク(競爭)と名けたり彼等が己と之を競爭たるによりてなり 二一是に
於て又他の井を鑿しが彼等是をも爭ひければ其名をシテナ(敵)となづけ

二二 たり二三イサク乃ち其處より遷りて他の井を鑿けるが彼等之をあらそはざ
りければ其名をレホボテ(廣場)と名けて言ける二四今エホバ我等の處所を
二三 廣くなしたまへり我等斯地に繁衍んと三三斯て彼其處よりベエルシバにのぼり
二四 しが三四其夜エホバ彼にあらはれて言たまひける二我は汝の父アブラハム
の神なり懼るゝなかれ我汝と偕にありて汝を祝み我僕アブラハムのため
二五 に汝の子孫を增んと三五是に於て彼處に壇を築きてエホバの名を籲び天幕
二六 を彼處に張り彼處にてイサクの僕共井を鑿り二六茲にアビメレク其友アホザ
二七 テ及び其軍勢の長ピコルと共にゲラルよりイサクに來りければ二七イ
サク彼等に言ふ汝等い我を惡み我をして汝等をはなれて去しめたるなる
二八 に何ぞ我許に來るや二八彼等いひけるは我等確然にエホバが汝と偕にある
を見たれば我等の間卽ち我等と汝の間に誓詞を立て汝と契約を結ばんと
二九 謂へり二九汝我等に惡事をなすなかれ其は我等は汝を害せず只善事のみを
汝になし且汝を安然に去しめたれば今なり汝はエホバの祝みたまふ者なり

三十 三十イサク乃ち彼等のために酒宴を設ければ彼等食ひ且飮り三一斯て朝夙
三一 に起て互に相誓へり而してイサク彼等を去しめたれば彼等イサクをさな
三二 れて安然にかへりぬ三二其日イサクの僕來りて其はりたる井につきて之に
三三 告て我等水を得たりといへり三三卽ち之をシバとなづく此故に其邑の名は
今日までベエルシバ(誓詞の井)といふ三四エサウ四十歲の時ヘテ人ベエリ
三四 の女ユデテとヘテ人エロンの女バスマテを妻に娶り三五彼等とイサクとリ
三五 ベカの心の憂煩となれり

第二十七章 一イサク老て目くもりて見るあたはざるに及びて其長子エサウ
一 を召て之に吾子よといひければ答へて我此にありといふ二イサクいひけ
二 るは視よ我は今老て何時死るやを知ず三然ば請ふ汝の器汝の弓矢を執て
三 野に出でわがために麞を獵て四わが好む美味を作り我にもちきたりて食
四 しめよ我死るまへに心に汝を祝せん五イサクがその子エサウに語る時に
五 リベカ聞ゐたりエサウい麞を獵て携きたらんとて野にゆけり六是に於て
六

リベカ其子ヤコブに語りていひけるハ我聞ゐたるに汝の父汝の兄エサウ
に語りて言けらく七吾ために麑をとりきたり美味を製りて我にくハせよ
死るまへに我エホバの前にて汝を祝せんと八然ば吾子よ吾言にしたがひ
わが汝に命ずるごとくせよ九汝群畜の所にゆきて彼處より山羊の二箇の
善き羔を我にとりきたれ我之をもて汝の父のために其好む美味を製らん
十汝之を父にもちゆきて食しめ其死る前に汝を祝せしめよ十一ヤコブ其母
リベカに言けるは兄エサウハ毛深き人にして我ハ滑澤なる人なり十二恐く
ハ父我に捫ることあらん然ば我は欺く者と父に見えんされば祝を得ず
して反て呪詛をまねかん十三其母彼にいひけるは我子よ汝の詛ハるゝ所ハ
我に歸せん只わが言にしたがひ往て取來れと十四是において彼往て取り母
の所にもちきたりければ母すなハち父の好むところの美味を製れり十五而
してリベカ家の中に己の所にある長子エサウの美服をとりて之を季子ヤ
コブに衣せ十六又山羊の羔の皮をもて其手と其頸の滑澤なる處とを掩ひ十七

其製りたる美味とパンを子ヤコブの手にわたせり十八彼乃ち父の許にいた
りて我父よといひければ我此にありわが子よ汝ハ誰なると曰ふ十九ヤコブ
父にいひけるハ我ハ汝の長子エサウなり我汝が我に命じたるごとくなせ
り請ふ起て坐しわが麑の肉をくらひて汝の心に我を祝せよ二十イサク其子
に言けるハ吾子よ汝いかにして斯速に獲たるや彼言ふ汝の神エホバ之を
我にあハせたまひしが故なり二一イサクヤコブにいひけるハわが子よ請ふ
近くよれ我汝に捫て汝がまことに吾子エサウなるや否やをしらん二二ヤコ
ブ父イサクに近よりければイサク之にさわりていひけるハ聲ハヤコブの
聲なれども手ハエサウの手なりと二三彼の手其兄エサウの手のごとく毛深
かりしに因て之を辨別へずして遂に之を祝したり二四即ちイサクいひける
ハ汝ハまことに吾子エサウなるや彼然りといひければ二五イサクいひける
ハ我に持きたれ吾子の麑を食ひてわが心に汝を祝せんと是に於てヤコブ
彼の許にもちきたりければ食へり又酒をもちきたりければ飲り二六かくて

二七 父イサク彼にいひけるい吾子よ近くよりて我に接吻せよと二七彼すないち
近よりて之に接吻しけれバ其衣の馨香をかぎて彼を祝していひけるい嗚
二八 呼吾子の香いエホバの祝たまへる野の馨香のごとし二八ねがいくい神天の
二九 露と地の腴および饒多の穀と酒を汝にたまへ二九諸の民汝につかへ諸の邦
汝に躬を鞠ん汝兄弟等の主となり汝の母の子等汝に身をかゞめん汝を詛
三十 ふ者いのろわれ汝を祝する者い祝せらるべし三十イサクヤコブを祝するこ
とを終てヤコブ父イサクの前より出さりし時にあたりて兄エサウ獵より
三一 歸り來り三一己も亦美味をつくりて之を其父の許にもちゆき父にいひける
い父よ起て其子の麑を食ひて心に我を祝せよ三二父イサク彼にいひけるい
三二 汝い誰なるや彼いふ我い汝の子汝の長子エサウなり三三イサク甚大いに
三三 戰慄ていひけるハ然バ彼麑を獵て之を我にもちきたりし者ハ誰ぞや我汝
がきたるまへに諸の物を食ひて彼を祝したれバ彼まことに祝福をうべし
三四 三四エサウ父の言を聞て大に哭き痛く泣て父にいひけるハ父よ我を祝せよ

三五 三六 我をも祝せよ三五イサク言けるハ汝の弟　僞りて來り汝の祝を奪ひたり三六
エサウいひけるい彼をヤコブ（推除者）となづくるい宜ならずや彼が我を
おしのくる事此にて二次なり昔にいわが家督の權を奪ひ今いわが祝を奪
三七 ひたり又言ふ汝い祝をわがために殘しおかざりしや三七イサク對てエサウ
にいひけるハ我彼を汝の主となし其兄弟を悉く僕として彼にあたへたり
又穀と酒とを彼に授けたり然バ吾子よ我何を汝になすをえん三八エサウ父
三八 に言けるハ父よ父の祝唯一ならんや父よ我を祝せよ我をも祝せよとエサ
ウ聲をあげて哭ぬ三九父イサク答て彼にいひけるい汝の住所い地の膏腴に
三九 はなれ上よりの天の露にはなるべし四十汝い劍をもて世をわたり汝の弟に
四十 事ん然ど汝繋を離るゝ時い其軛を汝の頸より振ひおとすを得ん四一エサウ
四一 父のヤコブを祝したる其祝の爲にヤコブを惡めり卽ちエサウ心に謂ける
は父の喪の日近けれバ其時我弟ヤコブを殺さんと四二長子エサウの此言
四二 リベカに聞えけれバ季子ヤコブを呼よせて之に言けるい汝の兄エサウ汝

四三 を殺さんとおもひて自ら慰む四三されバ吾子よ我言にしたがひ起てハラン
四四 にゆきわが兄ラバンの許にのがれ四四汝の兄の怒の釋るまで暫く彼と〳〵も
四五 に居れ四五汝の兄の鬱憤釋て汝をはなれ汝が彼になしたる事を忘るゝにい
たらバ我人をやりて汝を彼處よりむかへん我何ぞ一日のうちに汝等二人
四六 を喪ふべけんや四六リベカイサクに言けるハ我ハヘテの女等のために世を
厭ふにいたるヤコブ若此地の彼女等の如きヘテの女の中より妻を娶らバ
我身生るも何の利益あらんや

一 **第二十八章** イサクヤコブを呼て之を祝し之に命じて言けるハ汝カナンの
二 女の中より妻を娶るなかれ二起てパダンアラムに往き汝の母の父ベトエ
三 ルの家にいたり彼處にて汝の母の兄ラバンの女の中より妻を娶れ三願く
い全能の神汝を祝み汝をして子女を多く得せしめ且汝の子孫を增て汝を
四 衆て多衆の民とならしめ四又アブラハムに賜んと約束せし祝を汝および
汝と共に汝の子孫に賜ひ汝をして神がアブラハムにあたへ給ひし此汝が

五 寄寓る地を持た玄めたまいんとをと五斯てイサクヤコブを遣しけれバパ
ダンアラムにゆきてラバンの所にいたれりラバンハスリア人ベトエルの
六 子にしてヤコブとエサウの母なるリベカの兄なり六エサウハイサクがヤ
コブを祝して之をパダンアラムにつかハし彼處より妻を娶めんと玄たま
七 るを見又之を祝し汝ハカナンの女の中より妻をめとるなかれといひて之
に命じたることを見七又ヤコブが其父母の言に順ひてパダンアラムに往
八 しを見たり八エサウまたカナンの女の其父イサクの心にかなハぬを見た
九 り九是においてエサウイシマエルの所にゆきて其有る妻の外に又アブラ
十 ハムの子イシマエルの女子バヨテの妹マハラテを妻にめとれり十茲に
十一 ヤコブベエルシバより出たちてハランの方におもむきけるが十一一處にい
たれる時日暮たれバ卽ち其處に宿り其處の石をとり枕となして其處に臥
十二 て寢たり十二時に彼夢て梯の地にたちて其巓の天に達れるを見又神の使
十三 者の其にのぼりくだりするを見たり十三エホバ其上に立て言たまハく我ハ

十四 汝の祖父アブラハムの神エホバおり汝が偃臥ところの地い我
之を汝と汝の子孫に與へん十四汝の
十五 南に蔓るべし又天下の諸の族汝と汝の子孫により福祉をえん十五また
我汝とともにおりて凡て汝が往ところにて汝をまもり汝を此地に率返る
十六 べし我いわが汝にかたりし事を行ふまで汝をはなれざるなり十六ヤコブ目
十七 をさまして言けるい誠にエホバ此處にいますに我之らざりきと十七乃ち惶
十八 懼ていひけるい畏るべき哉此處是即ち神の殿の外ならず是天の門なり十八
かくてヤコブ朝夙に興き其枕となしたる石を取り之を立て柱となし膏を
十九 其上に沃ぎ十九其處の名をベテル(神殿)と名けたり其邑の名い初いルスと
二十 いへり二十ヤコブ乃ち誓をたてていひけるい若神我とともにいまし此わが
二一 ゆく途にて我をまもり食ふパンと衣る衣を我にあたへ二一我をしてわが父
二二 の家に安然に歸ることを得せしめたまいエホバをわが神となさん二二又
わが柱にたてたる此石を神の家となさん又汝がわれにたまふ者い皆必ず

一 其十分の一を汝にさゝげん
第二十九章 一斯てヤコブ其途にすゝみて東の民の地にいたりて二見るに野の
二 に井ありて羊の群三其傍に臥ゐたり此井より群に飲へばなり大なる石井
三 の口にあり三羊の群皆其處に集る時に井の口より石をまろばして羊に水
四 飼ひ復故のごとく井の口に石をのせおくなり四ヤコブ人々に言けるい兄
五 弟よ爰よりきたれるや彼等いふ我等いハランより來る五ヤコブ彼等にい
六 ひけるい汝等ナホルの子ラバンをしるや彼等識といふ六ヤコブ又かれら
七 にいひけるい彼い安きや彼等いふ安し視よ彼の女ラケル羊と偕に來ると
七 ヤコブ言ふ視よ日尚高し家畜を聚むべき時にあらず羊に飲ひて往て牧
八 せよ八彼等いふ我等之かする能ず群の皆聚るに及て井の口より石をまろ
九 ばして羊に飲ふべきなりルヤコブ尚彼等と語る時にラケル父の羊とゝも
十 に來る其い之を牧居たればなり十ヤコブ其母の兄ラバンの女ラケルおよ
び其母の兄ラバンの羊を見しかばヤコブ進みよりて井の口より石をまろ

十一 ベし母の兄ラバンの羊に飲ひたり十二而してヤコブラケルに接吻し聲をあ
十二 げて啼哭ぬ十二即ちヤコブラケルに己れの父の兄弟にしてリベカの子な
十三 ることを告けれベ彼はしりゆきて父に告たり十三ラバン其妹の子ヤコブ
の事を聞おかベ趨ゆきて之を迎へ之を抱きて接吻し之を家に導きいたれ
十四 りヤコブすなわち此等の事を悉くラバンに述たり十四ラバン彼にいひける
十五 ハ汝ハ誠にわが骨肉なりとヤコブ一月の間彼とゝもに居る十五茲にラバン
ヤコブにいひけるハ汝ハわが兄弟なれバとて空く我に役事べけんや何の
十六 報酬を望むや我に告よ十六ラバン二人の女子を有り姉の名ハレアといひ妹
十七 十八 の名ハラケルといふ十七レアハ目弱かりしがラケルハ美くして姝し十八ヤコ
十九 ブラケルを愛したれバ言ふ我汝の季女ラケルのために七年汝に事ん十九ラ
バンいひけるハ彼を他の人にあたふるよりも汝にあたふるハ善し我と偕
二十 に居れ二十ヤコブ七年の間ラケルのために勤たりしが彼を愛するが爲に之
二一 を數日の如く見做り二一茲にヤコブラバンに言けるハわが期滿たれバわが

二二 妻をあたへて我をしてかれの處にいることを得せしめよ二二是に於てラバ
二三 ン處の人を盡く集めて酒宴を設けたりし二三晩に及びて其女レアを携へ
二四 て之をヤコブにつれ來れりヤコブ即ち彼の處にいりぬ二四ラバンまた其侍
二五 婢ジルパを娘レアに與へて侍婢となさしめたり二五朝にいたりて見るにレ
アなりしかベヤコブラバンに言けるハ汝なんぞ此事を我になしたるや我
二六 ラケルのために汝に役事おにわらずや汝なんぞ我を欺くや二六ラバンいひ
二七 けるハ姉より先に妹を嫁おむる事ハ我國にて爲ざるところなり二七其七日
を過せ我等是をも汝に與へん然ベ汝是がために尚七年我に事へて勤むべ
二八 し二八ヤコブ即ち斯なして其七日を過せしかベラバン其女ラケルをも
二九 之にあたへて妻となさしむ二九またラバン其侍婢ビルハを女ラケルにあた
三十 へて侍婢となさしむ三十ヤコブまたラケルの所にいりぬ彼レアよりもラケ
三一 ルを愛し尚七年ラバンに事たり三一エホバレアの嫌るゝを見て其胎をひら
三二 きたまへり然どラケルハ姙なきものありき三二レア孕みて子を生み其名を

ルベンと名けていひけるもエホバ誠にわが艱苦を顧みたまへりされバ今
三三 夫我を愛せんと三三彼ふたゝび孕みて子を產みエホバわが嫌るゝを聞たま
三四 ひしによりて我に是をもたまへりと言て其名をシメオンと名けたり三四彼
また孕みて子を生み我三人の子を生たれバ夫今よりわれに膠漆んといへ
三五 り是によりて其名をレビと名けたり三五彼復妊みて子を生み我今エホバを
讃美んといへり是によりて其名をユダと名けたり是にいたりて產ことや
みぬ

第三十章 ラケル己がヤコブに子を生ざるを見て其姉を妬みヤコブに言け
一 るハ我に子を與へよ然らずバ我死んとニヤコブラケルにむかひて怒を發
二 して言ふ汝の胎に子をやどらしめざる者は神なり我神に代るをえんや三
三 ラケルいふ吾婢ビルハを視よ彼の處に入れ彼子を生てわが膝に置ん然バ
四 我もまた彼によりて子をうるにいたらんと四其仕女ビルハを彼にあたへ
五 て妻となさしめたりヤコブ卽ち彼の處にいる五ビルハ遂にはらみてヤコ

六 ブに子を生けれバ六ラケルいひけるハ神我を監み亦わが聲を聽いれて吾
七 に子をたまへりと是によりて其名をダンと名けたり七ラケルの仕女ビル
八 ハ再び妊みて次の子をヤコブに生けれバ八ラケル我神の爭をもて姉と爭
九 ひて勝ぬといひて其名をナフタリと名けたり九茲にレア產ことの止たる
十 を見しかバ其仕女ジルパをとりて之をヤコブにあたへて妻となさしむ十
十一 レアの仕女ジルパヤコブに子を產けれバ十一レア福來れりといひて其名
十二 をガドと名けたり十二レアの仕女ジルパ次子をヤコブに生けれバ十三レアい
十三 ふ我い幸なり女等我を幸なる者となさんと其名をアセルとなづけたり十四
十四 茲に麥苅の日にルベン出ゆきて野にて戀茄を獲これを母レアの許にもち
十五 きたりけれバラケルレアにいひけるハ請ふ我に汝の子の戀茄をあたへよ
十五 レア彼にいひけるハ汝のわが夫を奪しい微き事ならんや然るに汝またわが子の戀茄をも奪んとするやラケルいふ然バ汝の子の戀茄のために夫
十六 是夜汝と寢べし十六晚におよびてヤコブ野より來りけれバレア之をいでむ

十七 かへて言けるゝ我誠にわが子の戀茄をもて汝を雇ひたれゞ汝我の所にい
十八 らざるべからずヤコブ即ち其夜彼といねたり十七神レアに聽たまひけれ
十九 ゞ彼妊みて第五の子をヤコブに生り十八レアいひけるゝ我わが仕女を夫に
二十 與へたれゞ神我に其値をたまへりと其名をイッサカルと名けたり十九レア
二一 復妊みて第六の子をヤコブに生り二十レアいひけるゝ神我に嘉賚を貺ふ我
二二 六人の男子を生たれゞ夫今より我と偕にすまんと其名をゼブルンとなづ
二三 けたり二一其後彼女子を生み其名をデナと名けたり二二玆に神ラケルを念ひ
二四 神彼に聽て其胎を開きたまひけれゞ二三彼妊みて男子を生て曰ふ神わが恥
二五 辱を酒ぎたまへりと二四乃ち其名をヨセフと名けて言ふエホバ又他の子を
二六 我に加へたまはん二五玆にラケルのヨセフを生むに及びてヤコブラバンに
二七 言けるゝ我を歸して故郷に我國に往しめよ二六わが汝に事て得たる所の妻
子を我に與へて我を去しめよわが汝になしたる役事ゝ汝之を知るなり二七
ラバン彼にいひけるゝ若なんぢの意にかなゝゞねがはくゝ留れ我エホバ

二八 が汝のために我を覩みしを卜ひ得たり二八又言ふ汝の望む値をのべよ我之
二九 を與ふべし二九ヤコブ彼にいひけるゝ汝ゝ如何にわが汝に事しか如何に汝
三十 の家畜を牧しかを知る三十わが來れる前に汝の有たる者ゝ鮮少なりしが增
て遂に群をなすに至る吾來りてよりエホバ汝を祝みたまへり然ども我いつ
三一 何時吾家を成にいたらんや三一彼言ふ我何を汝に與へんかヤコブいひける
ゝ汝何物をも我に與ふるに及ゞず汝若此事を我になさゞ我復汝の群を牧
三二 守ん三二即ち我今日偏く汝の群をゆきめぐりて其中より凡て斑なる者點な
る者を移し綿羊の中の凡て黑き者と斑なる者を移し山羊の中の點なる者と斑なる者
三三 を移さん是わが値なるべし三三後に汝來りてわが傭値を玄らぶる時わが義
我にかゝりて應をなすべし若わが所に山羊の斑ならざる者點ならざる者
三四 あり綿羊の黑からざる者あらゞ皆盜る者となすべし三四ラバンいふ汝の言
の如くなさんことを願ふ三五是に於て彼其日牡山羊の斑入なる者斑點なる
三五 者を移し凡て牝山羊の斑點なる者都て身に白色ある者を移し

三六 又綿羊の中の凡て黑き者を移して其子等の手に付せり三六而して彼己とヤ
三七 コブの間に三日程の隔をたてたりヤコブハラバンの餘の群を牧ふ三七茲に
三八 ヤコブ楊柳と楓と桑の青枝を執り皮を剝て白紋理を成り枝の白き所をあ
三九 らハし三八其皮はぎたる枝を群の來りて飮むところの水槽と水鉢に立て群
四十 に向ハしめ群をして水のみに來る時に孕ましむ三九群すなハち枝の前に孕
みて斑入の者斑駁なる者を產しかバ四十ヤコブ其羔羊を區分ち
四一 ラバンの群の面を其群の斑入なる者と黑き者に對ハしめたりしが己の群
をバ一所に置てラバンの群の中にいれざりき四一又家畜の壯健き者孕みた
四二 る時ハヤコブ水槽の中にて其家畜の目の前に彼枝を置き枝の傍において
孕ましむ四二然ど家畜の羸弱かる時ハ之を置ず是に因て羸弱者ハラバンの
四三 となり壯健者ハヤコブのとなれり四三是に於て其人大に富饒になりて多の
家畜と婢僕および駱駝驢馬を有にいたれり

第三十一章

一 茲にヤコブラバンの子等がヤコブわが父の所有を盡く奪ひ

二 吾父の所有によりて此凡の榮光を獲たりといふを聞りニ亦ヤコブラバン
三 の面を見るに己に對することの疇昔の如くあらず三時にエホバヤコブに言
四 たまひけるハ汝の父の國にかへり汝の親族に至れ我汝と偕にをらんと四
五 是に於てヤコブ人をやりてラケルとレアを野に招きて群の所に至らしめ
五 之にいひけるハ我汝等の父の面を見るに其我に對することの疇昔の如く
六 ならず然どわが父の神ハ我と偕にいますなり六汝等が玄るごとく我力を
七 竭して汝等の父我を欺きて十次もわが値を易たり然ども神彼の我を害するを容したまハず七彼斑駁なる者ハ汝の價値なるべしといへバ群の生ところ皆斑入の者ハ汝の値なるべしといへバ群の生ところ皆斑入なり八斯神汝らの父の家畜を奪て我に與へたまへり九群の孕む時に當りて我夢に目をあげて見しに群の上に乘る牡羊ハ皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なりき十一時に神の使者夢の中に我に言ふヤコブよと我此にありと對へけれバ十二乃ち言ふ汝の目をあげて見よ群

の上に乘る牡羊い皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なり
十三 我ラバンが凡て
汝に爲すところを鑒みる 十三我いベテルの神なり汝彼處にて柱に膏を沃ぎ
十四 彼處にて我に誓を立たり今起て斯地を出て汝の親族の國に歸れと 十四ラケ
十五 ルとレア對て彼にいひけるい我等の父の家に尙われらの分あらんや我等
の產業あらんや 十五我等い父に他人のごとくせらるゝにあらずや其い父我
十六 等を賣り亦我等の金を蝕滅したれバなり 十六神がわが父より取たまひし財
寶い我等とわれらの子女の所屬なり然バ都て神の汝に言たまひし事を爲
十七 十八 せ 十七是に於てヤコブ起て子等と妻等を駱駝に乘せ 十八其獲たる凡の家畜と
凡の所有物卽ちパダン、アラムにてみづから獲たるところの家畜を擁へ
十九 去てカナンの地に居所の其父イサクの所におもむけり 十九時にラバンい羊
二十 の毛を剪んとて往てわりラケル其父のもてるラバムを竊めり 二十ヤコブ
二一 い其去とをスリア人ラバンに告ずして潛に忍びいでたり 二一卽ち彼ろの凡
の所有を擧へて逃去り起て河を渡りギレアデの山にむかふ 二二ヤコブの逃
二二

去しこと三日におよびてラバンに聞えけれバ 二三彼兄弟を率てろの後を追
二三 ひしが七日路をへてギレアデの山にて之に追及ぬ 二四神夜の夢にスリア人
二四 ラバンに臨みて汝愼みて善も惡もヤコブに道なかれと之に告たまへり 二五
二五 ラバン遂にヤコブに追及しがヤコブは山に天幕を張ゐたれバラバンもろ
の兄弟と共にギレアデの山に天幕をはれり 二六而してラバンヤコブに言
二六 けるい汝我に知しめずして忍びいで吾女等を劍をもて執たる者のごとく
二七 にひきゆけり何ぞかゝる事をなすや 二七何故に汝潛に逃さり我をもなれて
忍いで我につげざりしや我歡喜と歌謠と鼓と琴をもて汝を送りしならん
二八 を 二八何ぞ我をしてわが孫と女に接吻するを得ざらしめしや汝愚妄なる事
二九 をなせり 二九汝等に害をくはふるの能わが手にあり然ど汝等の父の神昨夜
我に告て汝つゝしみて善も惡もヤコブに語べからずといへり 三十汝今父の
三十 家を甚く戀て歸んと願ふい善れをも何ぞわが神を竊みたるや 三一ヤコブ答
三一 へてラバンにいひけるは恐くは汝強て女を我より奪ならんと思ひて懼れ

三二 たれゞなり三二汝の神を持る者を見ゞ之を生しおくなかれ我等の兄弟等の
前にて汝の何物我の許にあるかをみわけて之を汝に取れと其ハヤコブラ
三三 ケルが之を竊しを知ざれゞなり三三是に於てラバンヤコブの天幕に入り
レアの天幕に入りまた二人の婢の天幕にいりしが覩いださゞれゞレアの
三四 天幕を出てラケルの天幕にいる三四ラケル已にテラピムを執て之を駱駝の
鞍の下にいれて其上に坐しけれゞラバン遍く天幕の中をさぐりたれども
三五 見いださゞりき三五時にラケル父にいひけるは婦女の經の習例の事わが身
にあれゞ父の前に起あたハず願くハ主之を怒り給ふなかれと是をもて彼
三六 さがしたれども遂にテラピムを見いださゞりき三六是に於てヤコブ怒てラ
バンを譴即ちヤコブ應てラバンに言けるハ我何の愆あり何の罪ありてか
三七 汝火急く我をおふや三七汝わが物を盡く索たるが汝の家の何物を見いだし
たるや此にわが兄弟と汝の兄弟の前に其を置て我等二人の間をさばかし
三八 めよ三八我この二十年汝とゝもにありしが汝の牝羊と牝山羊其胎を殰ね

三九 しことなし又汝の群の牡綿羊ハ我食ハざりき三九又噛裂れたる者ハ我これ
を汝の所に持さたらずして自ら之を補へり又晝竊るゝも夜竊るゝも汝わ
四十 が手より之を要めたり四十我ハ是ありつゝ晝ハ暑に夜ハ寒に犯されて目も寢
四一 るの遑なく四一此二十年汝の家にありたり汝の二人の女の爲に十四年汝の
四二 群のために六年汝に事たり然に汝ハ十次もわが値を易たり四二若わが父の
神アブラハムの神イサクの畏む者我とゝもにいますにあらざれゞ汝今必
ず我を空手にて去めしならん神わが苦難とわが手の勞苦をかへりみて
四三 昨夜汝を責たまへるなり四三ラバンヤコブに言けるハ女等ハわが女子
等ハわが子群ハわが群汝が見る者ハ皆わが所屬なり我今日此わが女等と
四四 ろの生たる子等に何をなすをえんや四四然ゞ來れ我と汝二人契約をむすび
之を我と汝の間の証憑となすべし四五是に於てヤコブ石を執りこれを建て
四五 柱となせり四六ヤコブ又ろの兄弟等に石をあつめよといひけれゞ即ち石を
四六 とりて垤を成れり斯て彼等彼處にて垤の上に食す四七ラバン之をエガルサ

四八 ハドタ(証憑の垤)と名けヤコブ之をギレアデ(証憑の垤)と名けたり四八ラ
バン此垤今日われとなんぢの間の証憑たりといひしによりて其名はギレ
四九 アデと稱らる四九又ミヅパ(觀望櫓)と稱らる其い彼我等が互にわかるゝに
五十 及べる時ねがわくいエホバ我と汝の間を監みたまへといひたれバなり五十
彼又いふ汝もしわが女をなやまし或いわが女のほかに妻をめとらバ人の
我らと偕なる者なきも神我と汝のあひだにいまして証をなしたまふ五一ラ
五一 バン又ヤコブにいふ我われとなんぢの間にたてたる此垤を視よ柱をみよ
五二 此垤証とならん柱証とならん我この垤を越て汝を害せじ汝この垤
五三 柱を越て我を害せざれ五三アブラハムの神ナホルの神彼等の父の神われら
の間を鞫きたまへとヤコブ乃ちろの父イサクの畏む者をさして誓へり五四
五四 斯てヤコブ山にて犠牲をさゝげうの兄弟を招きてパンを食しむ彼等パン
五五 を食て山に宿れり五五ラバン朝蚤に起き其孫と女に接吻して之を祝せり去
かしてラバンゆきて其所にかへりぬ

一二 第三十二章 茲にヤコブうの途に進みしが神の使者これにあふ二ヤコブて
れを見て是い神の陣營なりといひてうの處の名をマハナイム(二營)とな
づけたり三かくてヤコブ己より前に使者をつかわしてセイルの地エドム
の野にをる其兄エサウの所にいたらしむ四即ち之に命じて言ふ汝等かく
わが主エサウにいふべし汝の僕ヤコブ斯いふ我ラバンの所に寄寓て今ま
でとゞまれり五我牛驢馬羊僕婢あり人をつかわしてわが主に告ぐ汝の
前に恩をえんことを願ふなりと六使者ヤコブにかへりて言けるわ我等汝
の兄エサウの許に至れり彼四百人をしたがへて汝をむかへんとて來ると
七是によりヤコブ大におそれ且くるしみ己とともにある人衆および羊と
牛と駱駝を二隊にわかちて八言けるわエサウもし一の隊に來りて之をう
たバ遺れるところの一隊逃るべしと九ヤコブまた言けるわが父アブラハ
ムの神わが父イサクの神エホバよ汝嘗て我につげて汝の國にかへり汝の
親族に到れ我なんぢを善せんといひたまへり十我わなんぢが僕にほどこ

したまひし恩惠と眞實を一も受るにたらざるなり我わが杖のみを持てこのヨルダンを濟りしが今わ二隊とも成にいたれり十一願くわが兄の手よりエサウの手より我をすくひいだしたまへ我彼をおろる恐くわ彼きたりて我をうち母と子とに及ばん十二汝わ嘗て我かならず汝を惠み汝の子孫を濱の沙の多して數ふべからざるが如くなさんといひたまへりと十三彼ろの夜彼處に宿りろの手にいりし物の中より兄エサウへの禮物をえらべり十四即ち牝山羊二百牡山羊二十牝羊二百牡羊二十十五乳駱駝と其子三十牝牛四十牡牛十牝の驢馬二十驢馬の子十六而して其群と群とをわかちて之を僕の手に授し僕にいひけるわ吾に先ちて進み群と群との間を隔おくべし十七又ろの前者に命じて言けるわが兄エサウ汝にあひ汝に問て汝わ誰の人にして何處にゆくや是汝のまへなる者わ誰の所有なるやといはゞ十八汝の僕ヤコブの所有にしてわが主エサウにたてまつる禮物なり視よ彼もわれらの後にをるといふべしと十九彼かく第二の者第三の者および凡て群々に

云たがひゆく者に命じていふ汝等エサウにあふ時わかくのごとく之にいふべし二十且汝等いへ視よなんぢの僕ヤコブわれらの後にをるとヤコブおもへらく我わが前におくる禮物をもて彼を和めて然るのち其面を覩ん然ば彼我を接遇ることあらんと二一是によりて禮物かれに先ちて行く彼わ其夜陣營の中に宿りしが二二其夜おきいでゝ二人の妻と二人の仕女および十一人の子を導きてヤボクの渡をわたれり二三卽ち彼等をみちびきて川を渉らしめ又ろの有る物を渡せり二四而してヤコブ一人遺りしが人ありて夜の明るまで之と角力す二五其人己のヤコブに勝ざるを見てヤコブの髀の樞骨に觸しかばヤコブの髀の樞骨其人と角力する時挫離たり二六其人夜明んとすれば我をさらしめよといひけれどヤコブいふ汝われを祝せずばさらしめずと二七是に於て其人かれにいふ汝の名わ何なるや彼いふヤコブあり二八其人いひけるわ汝の名わ重てヤコブとゝなふべからずイスラエルとなふべし其わ汝神と人とに力をわらひて勝たればなりと二九ヤコブ問て

三十 請ふ汝の名を告よといひけれバ其人何故にわが名をとふやといひて乃ち
其處にて之を祝せり三十是を以てヤコブ其處の名をペニエル（神の面）と
あづけて曰ふ我面と面をあはせて神とあひ見てわが生命あは存るなりと
三一 斯て彼日のいづる時にペニエルを過たりしが其髀のために歩行はかど
三二 らざりき三二是故にイスラエルの子孫い今日にいたるまで髀の樞の亘筋
食はず是彼人がヤコブの髀の亘筋に觸たるによりてあり

第三十三章

一 爰にヤコブ目をあげて覩にエサウ四百人をひきゐて來しかば
二 即ち子等を分ちてレアとラケルと二人の仕女とに付し二仕女とその子等
三 を前におきレアとその子等を次におきラケルとヨセフを後におきて三自
彼等の前に進み七度身を地にかゞめて遂に兄に近づきけるに四エサウ趨
四 てこれを迎へ抱きてその頸をかゝへて之に接吻す去かして二人ともに啼
五 泣り五エサウ目をあげて婦人と子等を見ていひけるは是等の汝とゝもな
六 る者は誰あるやヤコブいひけるい神が僕に授たまひし子なりと六時に仕

七 女等うの子とゝもに近よりて拜しセレアも亦うの子とゝもに近よりて拜
八 す其後にヨセフとラケルちかよりて拜す八エサウ又いひけるい我わへる
九 此諸の群い何のためなるやヤコブいふ主の目の前に恩を獲んがためなり
九エサウいひけるい弟よわが有ところの者い足り汝の所有い汝自ら之を
十 有てよ十ヤコブいひけるい否我もし汝の目の前に恩を獲ば請ふわが手より
この禮物を受よ我汝の面をみるに神の面をみるがごとくなり汝また我を
十一 よろこぶ十一神我をめぐみたまひて我が有ところの者足りされバ請ふわが
十二 汝にたてまつる禮物を受よと彼に強けれバ終に受たり十二エサウいひ
十三 けるい我等いでたちてゆかん我汝にさきだつべし十三ヤコブ彼にいひ
けるい主の知りたまふごとく子等い幼弱し又子を持る羊と牛と我に玄
十四 たがふ若一日これを驅すごさバ群みな死ん十四請ふわが主僕にさきだちて
進みたまへ我いわが前にゆくところの家畜と子女の足にまかせて徐に導
十五 きすゝみセイルにてわが主に詣らん十五エサウいひけるい然バ我わがひき

ゐる人數人を汝の所にのこさんヤコブいひけるゐ何ぞ此を須んや我をし
十六　て主の目のまへに恩を得せ玄めよ十六是に於てエサウゐ此日ゐの途に玄た
十七　がひてセイルに還りぬ十七斯てヤコブスコテに進みて己のために家を建て
十八　又家畜のために廬を作れり是によりて其處の名をスコテ(廬)といふ十八ヤ
　　コブバダンアラムより來りて恙おくカナンの地にあるシケムの邑に至り
十九　邑の前にゐの天幕を張り十九遂にゐの天幕をはりしところの野をシケムの
二十　父ハモルの子等の手より金百枚にて購とり二十彼處に壇をきづきて之を
　　エル、エロヘ、イスラエル(イスラエルの神ある神)となづけたり

第三十四章

一　レアのヤコブに生たる女デナゐの國の婦女を見んとていでゆ
二　きしがニゐの國の君主あるヒビ人ハモルの子シケムこれを見て之をひき
三　いれこれと寢てこれを辱しむ三而してゐの心ふかくヤコブの女デナを戀
四　ひて彼此女を愛しこの女の心をいひあだむ四斯てシケムゐの父ハモルに
五　語り此少き女をわが妻に獲よといへり五ヤコブ彼がゐの女子デナを汚し

六　たることを聞玄かどもゐの子等家畜を牧て野にをりしによりて其かへる
七　までヤコブ默しゐたり七シケムの父ハモルヤコブの許にいできたりて之
　　と語らふ七茲にヤコブの子等野より來りしが之を聞しかど其人々憂へか
八　つ甚く怒れり是ゐシケムがヤコブの女と寢てイスラエルに愚なる事をな
　　したるに因り是のごとき事ゐなすべからざる者なればなりハハモル彼等
九　に語りていひけるゐわが子シケム心になんぢの女を戀ふねがはくは彼を
十　シケムにあたへて妻となさしめよ九汝ら我らと婚姻をなし汝らの女を我
　　らにあたへ我らの女を汝らに娶れ十かくして汝等われらとともに居るべ
十一　し地ゐ汝等の前にあり此に住て貿易をなし此にて產業を獲よ十一シケム又
　　デナの父と兄弟等にいひけるゐ我をして汝等の目のまへに恩を獲せしめ
十二　よ汝らが我にいふところの者ゐ我あたへん十二いかに大なる聘物と禮物を
十三　要るも汝らがわれに言ふごとくあたへん唯この女を我にあたへて妻とな
　　さしめよ十三ヤコブの子等シケムとその父ハモルに詭りて答へたり即ちシ

十四 ケムがうの妹デナを汚したるによりて十四彼等これに語りていひけるハ
我等この事を爲あたハず割禮をうけざる者にわれらの妹をあたふるあた
十五 ハず是われらの恥辱なれバなり十五然ゞ斯せば我等汝らに允さん若し汝ら
十六 の中の男子みな割禮をうけてわれらの如くならバ十六我等の女子を汝等に
十七 あたへ汝らの女子をわれらに娶り汝らと偕にをりて一の民とならん十七汝
十八 等もし我等に聽ずして割禮をうけずバ我等女子をとりて去べしと十八彼等
十九 の言ハモルとハモルの子シケムの心にかなへり十九此若き人ヤコブの女を
愛するによりて其事をなすを遲せざりき彼わうの父の家の中にて最貴
二十 れたる者なり二十ハモルとその子シケム乃ちうの邑の門にいたり邑の人々
二一 に語りて云けるハ二一是人々わが我等と睦し彼等をして此地に住て此に貿易
をなさしめよ地ハ廣くして彼らを容るにたるなり我ら彼らの女を妻にめ
二二 とり我らの女をかれらに與へん二二若唯われらの中の男子みな彼らの割禮
をうくるごとく割禮を受なバ此人々われらに聽てわれらと偕にをり一の
二三 民となるべし二三然バ彼らの家畜と財産と其諸の畜ハ我等が所有となるに
二四 あらずや只かれらに聽ん云からバ彼らわれらとともにをるべしと二四邑の
門に出入する者みなハモルとうの子シケムに聽云たがひ邑の門に出入す
二五 る男子皆割禮を受たり二五斯て三日におよび彼等うの痛をおぼゆる時ヤコ
ブの子二人即ちデナの兄弟なるシメオンとレビ各々劍をとり往て思よら
二六 ざる時に邑を襲ひ男子を悉く殺し二六ハモルとうの子シケムを利刃をもて
二七 ころしシケムの家よりデナを携へいでたり二七而してヤコブの子等ゆきて
其殺されし者を剝ぎ其邑をかすめたり是彼等がうの妹を汚したるにより
二八 てなり二八またうの羊と牛と驢馬およびうの邑にある者と野にある者二九並
二九 にうの諸の貨財を奪ひうの子女と妻等を悉く擄にし家の中の物を悉く掠
三十 めたり三十ヤコブ シメオン とレビに言けるハ汝等我を累ハし我をして此
國の人即ちカナン人とペリジ人の中に避嫌れしむ我ハ數すくなければ彼
ら集りて我をせめ我をころさん然バ我とわが家滅さるべし三一彼等いふ彼

豈われらの妹を娼妓のごとくしてよからんや

一 第三十五章 茲に神ヤコブに言たまひけるは起てベテルにのぼりて彼處に
二 居り汝が昔に兄エサウの面をさけて逃る時に汝にあらはれし神に彼處に
三 て壇をきづけとニヤコブ乃ちその家人および凡て己とゝもなる者にいふ
汝等の中にある異神を棄て身を清めて衣服を易よ 三 我等起てベテルにの
ぼらん彼處にて我わが苦患の日に我に應へわが往ところの途にて我とゝ
四 もに在せし神に壇をきづくべし 四 是に於て彼等うの手にある異神および
うの耳にある耳環を盡くヤコブに與しかばヤコブこれをシケムの邊なる
五 橡樹の下に埋たり 五 斯て彼等いでたちぬ神其四周の邑々をして懼れ
めたまひければヤコブの子の後を追ふ者なかりき 六 ヤコブ及び之と共な
六 る諸の人遂にカナンの地にあるルズに至る是卽ちテベルなり 七 彼かしこ
七 に壇をきづき其處をエルベテルと名けたり是れ兄の面をさけて逃る時に
神此にて己にあらはれ給しによりてなり 八 時にリベカの乳媼デボラ死た

九 れば之をベテルの下にて橡樹の下に葬れり是によりてうの樹の名をアロ
十 ンバクテ（哀哭の橡）といふ 九 ヤコブパダンアラムより歸りし時神復これ
にあらはれて之を祝したまふ 十 神かれに言たまひけるは汝の名はヤコブと
十一 ふ汝の名は重てヤコブとよぶべからずイスラエルを汝の名とすべしとう
の名をイスラエルと稱たまふ 十一 神また彼にいひたまふ我は全能の神なり
十二 生よ殖よ國民および多の國民汝よりいでん 十二 わがアブラハムおよびイサクに
の後の子孫にうの地をあたふべしと 十三 神かれと言たまひし處より彼をさ
十三 なれて昇りたまふ 十四 是に於てヤコブ神れ己と言いひたまひし處に柱すな
十四 いち石の柱を立て其上ふ酒を灌ぎまたうの上に膏を沃げり 十五 而してヤコ
十五 ブ神の己とものいひたまひし處の名をベテルとなづけたり 十六 かくてヤコ
十六 ブ等ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでいまだ途路の隔ある處にて
ラケル產にのぞみうの產おもかりき 十七 彼難產にのぞめる時產婆之にい

十八 ひけるゝ懼るなかれ汝また此男の子を得たり十八彼死にのぞみてその魂さ
十九 らんとする時その子れ名をベノニ（吾苦痛の子）と呼たり然ど其父これを
二十 ベニヤミン（右手の子）となづけたり十九ラケル死てエフラタの途に葬らる
二一 是卽ちベテレヘムなり二十ヤコブその墓に柱を立たり是ゝラケルの墓の柱
二二 といひて今日まで在り二一イスラエル復いでたちてエダルの塔の外にその
二三 天幕を張り二二イスラエルかの地に住る時にルベン往て父の妾ビルハと寢
二三 たりイスラエルこれを聞く夫ヤコブの子ゝ十二人なり二三卽ちレアの子ゝ
二四 ヤコブの長子ルベンおよびシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンなり
二五 ラケルの子ゝヨセフとベニヤミンなり二五ラケルの仕女ビルハの子ゝダ
二六 ンとナフタリなり二六レアの仕女ジルパの子ゝガドとアセルなり是等ゝヤ
二七 コブの子にしてパダンアラムにて彼に生れたる者なり二七ヤコブキリアテ
アルバのマムレにゆきてその父イサクに至れり是すなゝちヘブロンなり
二八 彼處ゝアブラハムとイサクの寄寓しところなり二八イサクの齡ゝ百八十歳

二九 なりき二九イサク老て年滿ち氣息たえ死にて其民にくゝまれりその子エサ
ウとヤコブ之をはうむる

第三十六章 エサウの傳ゝかくのおとしエサウゝすなゝちエドムなり二エ
一二 サウカナンの女の中より妻をめとれり即ちヘテ人エロンの女アダおよび
三 ヒビ人ヂベオンの女なるアナの女アホリバマ是なり三又イシマエルの女
四 子バヨテの妹バスマテをめとれり四アダゝエリバズをエサウに生みバ
五 スマテゝリウエルを生み五アホリバマゝエウシヤラムおよびコラを生り
六 是等ゝエサウの子にしてカナンの地に於て彼に生れたる者なり六エサウ
七 うの妻と子女およびうの家の諸の人並に家畜と諸の畜類およびうのカナ
ンの地にて獲たる諸の物を擧へて弟ヤコブをはなれて他の地にゆけり
八 七其ゝ二人の富有多くして俱にをるあたゝざれゞなり彼らが寄寓しとこ
ろの地ゝかれらの家畜のためにかれらを容るをえざりき八是に於てエサ
九 ウセイル山に住りエサウゝすなゝちエドムなり九セイル山にをりしエド

十 ミ人の先祖エサウの傳ゐかくのごとしエ
十一 サウの妻アダの子ゐエリバズエサウの妻バスマテの子ゐリウエル
十二 バズの子ゐテマンオマルゼポガタムおよびケナズなりテムナ
ナゐエサウの子エリバズの妾にしてアマレクをエリバズに生り是等
十三 アダの子なりリウエルの子ゐナハテゼラシヤンマおよび
十四 ミザ是等ゐエサウの妻バスマテの子なりチベオンの女なるアナの女に
十五 してエサウの妻なるアホリバマの子ゐ左のごとしエウシ侯ヤラム侯コラ侯
十六 エサウに生り十五エサウの子孫の侯たる者ゐ左のごとしエサウの冢
子エリバズの子にゐテマン侯オマル侯ゼポ侯ケナズ侯十六コラ侯ガタム侯
十七 アマレク侯是等ゐエリバズよりいでたる侯にしてエドムの地にありき是
等ゐアダの子なり十七エサウの子リウエルの子ゐ左のごとしナハテ侯ゼラ
十八 侯シヤンマ侯ミザ侯是等ゐリウエルよりいでたる侯にしてエドムの地に
ありき是等ゐエサウの妻バスマテの子なり十八エサウの妻アホリバマの子

十九 ゐ左のごとしエウシ侯ヤラム侯コラ侯是等ゐアナの女にしてエサウの妻
二十 なるアホリバマよりいでたる侯なり十九是等ゐエサウすなゐちエドムの子
孫にしてうの侯たる者なり二十素より此地に住しホリ人セイルの子ゐ左の
二一 ごとしロタンショバルチベオンアナ二デションエゼルデシャン是等
二二 ゐセイルの子ホリ人の中の侯にしてエドムの地にあり二ロタンの子ゐホ
二三 リヘマムなりロタンの妹ゐテムナ二三ショバルの子ゐ左のごとしアルワン
二四 マナハテエバルシポオナム二四チベオンの子ゐ左のごとし即ちアヤとア
二五 ナ此アナその父チベオンの驢馬を牧をりし時曠野にて温泉を發見り二五ア
二六 ナの子ゐ左のごとしデションおよびアホリバマヲホリバマゐアナの女
二七 なり二六デションの子ゐ左のごとしヘムダンエシバンイテランケラン二七
二八 エゼルの子ゐ左のごとしビルハンザワンヤカン二八デシャンの子ゐ左の
二九 ごとしウヅアラン二九ホリ人の侯たる者ゐ左のごとしロタン侯ショバル
三十 侯チベオンアナ侯三十デション侯エゼル侯デシャン侯是等ゐホリ人の侯

三一 にしてその所領にしたがひてセイルの地にあり三二イスラエルの子孫を治
三二 むる王いまだわらざる前にエドムの地を治めたる王い左のごとし三三ベオ
三三 ルの子ベラエドムに王たりうの都の名いデナバといふ三三ベラ薨てボヅラ
三四 のゼラの子ヨバブ之にかはりて王となる三四ヨバブ薨てテマン人の地のホ
三五 シヤムこれにかいりて王となる三五ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれに
代て王となる彼モアブの野にてミデアン人を擊しことあり其邑の名いア
三六 ビテといふ三六ハダデ薨てマスレカのサムラこれにかいりて王となる三七サ
三七 ムラ薨て河の旁なるレホボテのサウル之にかいりて王となる三八サウル薨
三八 てアクボルの子バアルハナンこれに代りて王となる三九アクボルの子バア
三九 ルハナン薨てハダル之にかいりて王となる其都の名いパウといふうの妻
の名いメヘタベルといひてマテレデの女なりマテレデいメザハブの女な
四十 り四十エサウよりいでたる侯の名いうの宗族と居處と名に循ひていへべ左
のごとしテムナ侯アルワ侯エテヽ侯四一アホリバマ侯エラ侯ピノン侯四二ケ

四三 ナズ侯テマン侯ミブザル侯四三マグデエル侯イラム侯是等いエドムの侯に
して其領地の居處によりて言る者なりエドミ人の先祖いエサウ是なり
第三十七章 ヤコブいカナンの地に住り即ちうの父が寄寓し地なりニヤコ
一 二 ブの傳い左のごとしヨセフ十七歳にしてうの兄弟と偕に羊を牧ふヨセフ
い童子にしてうの父の妻ビルハの子およびジルパの子と侶たりしが彼等
の惡き事を父につぐ三ヨセフいうの老年子なるが故にイスラエルうの諸の兄
三 四 弟よりも深くこれを愛しこれがために綵る衣を製れり四うの兄弟等父が
うの諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を惡み穩和に彼にものいふ
五 ことを得せざりき五茲にヨセフ夢をみてうの兄弟に告けれバ彼等愈これ
六 を惡めり六ヨセフ彼等にいひけるい請ふわが夢たる此夢を聽け七我等田
七 の中に禾束をむすび居たるにわが禾束おき且立り而して汝等の禾束環り
たちてわが禾束を拜せりハうの兄弟等之にいひけるい汝眞にわれらの君
八 となるや眞に我等をつさむるにいたるやとうの夢とうの言のために益こ

九 れを悪めりヲセフ又一の夢をみて之をうの兄弟に述ていひけるハ我ま
十 た夢をみたるに日と月と十一の星われを拜せりと十即ちこれをうの兄と
兄弟に述けれバ父かれを戒めて彼にいふ汝が夢しこの夢ハ何ぞや我と汝
十一 の母となんぢの兄弟と實にゆきて地に鞠て汝を拜するにいたらんやと十一
十二 斯しかばうの兄弟かれを嫉めり然どうの父ハこの言をおぼえたり十二兹ゐ
十三 うの兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧ゐたりしかバ十三イスラエルヲセフ
にいひけるハ汝の兄弟ハシケムにて羊を牧をるにあらずや來れ汝を彼等
十四 につかハさんヲセフ父にいふ我こゝにあり十四父かれにいひけるハ請ふ往
て汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかへりて我につげよと彼をヘブロン
十五 の谷より遣ハしけれバ遂にシケムに至る十五或人かれに遇ふに彼野にさま
十六 よひをりしかバ其人かれに問て汝何をたづぬるやといひけれバ十六彼いふ
十七 我ハわが兄弟等をたづぬ請ふかれらが羊をかひをる所をわれに告よ十七ろ
の人いひけるハ彼等ハ此をさりし我かれらがドタンにゆかんといふを聞

十八 たりと是に於てヨセフろの兄弟の後をおひゆきドタンにて之に遇ふ十八ヨ
十九 セフの彼等に近かざる前に彼ら之を遙に見てこれを殺さんと謀り十九互に
二十 云けるハ視よ作夢者きたる二十去來彼をころして阱に投いれ或悪き獣これ
二一 を食たりと言ん而して彼の夢の如何になるかを觀るべしニルベン聞てヨ
セフを彼等の手より拯ひいださんとして言けるハ我等これを殺すべから
二二 ずニルベンまた彼らにいひけるハ
二三 いれて手をこれにつくるなかれと是ハ之を彼等の手よりすくひいだして
父に歸んとてなりき二三茲にヨセフ兄弟の許に到りけれバ彼等ヨセフの衣
二四 卽ちろの着たる綵る衣を褫ぎ二四彼を執て阱に投いれたり阱ハ空にしてう
二五 の中に水あらざりき二五斯して彼等坐てパンを食ひ目をあげて見しに一群
のイシマエル人駱駝に香物と乳香と沒藥をおいせてエジプトにくだりゆ
二六 くを見てユダろの兄弟にいひけるハ我等弟をころ
二七 かんとてギレアデより來る二六ユダ
してうの血を匿すも何の益かあらん二七去來彼をイシマエル人に賣ん彼ハ

我等の兄弟われらの肉なれバわれらの手をかれにつくべからずと兄弟等
二八 これを善とす二八時にミデアンの商旅經過けれバヨセフを阱よりひきあげ
銀二十枚にてヨセフをイシマエル人に賣り彼等すなわちヨセフをエジプ
二九 トにたづさへゆきぬ二九茲にルベンかへりて阱にいたり見しにヨセフ阱に
三十 をらざりしかバその衣を裂き三十兄弟の許にかへりて言ふ童子わをらず嗚
三一 呼我何處にゆくべきや三一斯てかれらヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころ
三二 してその衣を血に濡し三二その綵る衣を父におくり遣していひけるわ我等
これを得たりなんぢの子の衣なるや否を知れと三三父これを知りていふわ
三三 が子の衣なり惡き獸彼をくらへりヨセフわかならずさかれしならんと三四
三四 ヤコブその衣を裂き麻布を腰にまとひ久くその子のためになげけり三五そ
三五 の子女みな起てかれを慰むれどもその慰藉をうけずして我わ哀きつゝ
陰府にくだりて我子のもとにゆかんといふ斯その父かれのために哭ぬ三六
三六 偖ミデアン人わエジプトにてパロの侍衛の長ポテバルにヨセフを賣り

第三十八章 當時ユダ兄弟をはなれて下りアドラム人名わヒラといふ者の
一 近邊に天幕をはりしが二ユダかしこにてカナン人名わシユアといふ者の
二 女子を見これを娶りてその所にいる三彼はらみて男子を生みその名をエル
三 となづく四彼ふたゝび孕みて男子を生みその名をオナンと
四 なづけ五またかさねて孕みて男子を生みてその名をシラとなづく此子を
五 うみける時ユダわクジブにありき六ユダその長子エルのために妻をむか
六 ふその名をタマルといふ七ユダの長子エルエホバの前に惡をなしたれバ
七 エホバこれを死しめたまふ八茲にユダオナンにいひけるわ汝の兄の妻の
八 所にいりて之をめとり汝の兄をして子を乏せしめよ九オナンその子の己
九 のものとならざるを知たれバ兄の妻の所にいりし時兄に子を乏せしめざ
十 らんために地に洩したり十斯なせし事エホバの目に惡かりければエホバ
十一 彼をも死しめたまふ十一ユダその嬪タマルにいひけるわ孀婦となりて汝の
父の家にをりわが子シラの人となるを待てと恐らくわシラも亦その兄弟

のごとく死るならんとおもひたれバなりタマルすないち往てうの父の家
十二 にをる十二日かさなりて後シユアの女ユダの妻死たりユダ慰をいれてう
の友アドラム人ヒラとゝもにテムナにのぼりうの羊毛を剪る者の所にい
十三 たる十三茲にタマルにつげて視よなんぢの舅いうの羊の毛を剪んとてテム
ナにのぼるといふ者ありしかバ十四彼うの縈の服を脫すて被衣をもて身を
十四 おほひつゝみテムナの途の側にあるエナイムの入口に坐す其いシラ人と
なりたれゞも己これが妻にせられざるを見たれバなり十五彼うの面を蔽ひ
十五 ゐたりしかバユダこれを見て娼妓ならんとおもひ十六途の側にて彼に就き
十六 請ふ來りて我をして汝の所にいらしめよといふ其いうの子の妻なるを玄
らざれバなり彼いひけるい汝何を我にあたへてわが所にいらんとするや
十七 十七ユダいひけるい我群より山羊の羔をおくらん彼いふ汝其をおくるまで
質をあたへんか十八ユダ何の質をなんぢに與ふべきやといふに彼汝の印と
十八 綬と汝の手の杖をといひけれバ則ちこれを與へて彼の所にいりぬ彼ユダ

に由て妊めり十九彼起て去りうれ被衣をぬぎすて縈婦の服をまとふ二十かく
十九 てユダ婦の手より質をとらんとてうの友アドラム人の手に托して山羊の
二十 羔をおくりけるが彼婦を見ざれバニうの處の人に問て途の側なるエナイ
二一 ムの娼妓い何處にをるやといふに此にい娼妓なしといひけれバ三ユダの
二二 許にかへりていふ我彼を見いださず亦うの處の人此にい娼妓なしといへ
二二 りと三ユダいひけるい彼にとらせおけ恐くいわれら笑柄とならん我この
二三 山羊の羔をおくりたるに汝かれを見ざるなりと二四三月バかりありて後ユ
二四 ダに告る者ありていふ汝の媳タマル姦淫をなせり亦うの姦淫によりて妊
二四 めりとユダいひけるい彼を曳いだして焚べし二五彼ひきいだされし時うの
二五 舅にいひつかいしけるい是をもてる人によりて我い妊りと彼すないち請
ふこの印と綬と杖い誰の所屬なるかを辨別よといふ二六ユダこれを見識て
二六 いひけるい彼い我よりも正しわれ彼をわが子シラにあたへざりしにより
てなりと再びこれを知らざりき二七かくて產の時にいたりて見るにうの胎
二七

二八 に擧あり二八うの產時手出しかば產婆是首にいづといひて絳き線をとり
二九 てうの手に去ばりしが二九手を引こむるにわたりて兄弟いでたれば汝なん
ぞ折いづるやうの拆汝に歸せんといへり故にうの名をペレヅ(拆)と稱る
三十 うの兄弟手に絳線のある者後にいづうの名をゼラとよばる

一 第三十九章 ヨセフ挈へられてエジプトにくだりしがエジプト人ポテパル
バロの臣侍衛の長なる者彼を其處にたづさへくだれるイシマエル人の手
二 よりこれを買ふニエホバヨセフとゝもに在す彼亨通者となりてうの主人
三 なるエジプト人の家にをるニうの主人エホバの彼とゝもにいますを見ま
四 たエホバがかれの手の凡てなすところを亨通しめたまふを見たり四是に
よりてヨセフかれの心にかなひて其近侍となる彼ヨセフにうの家を宰ど
五 らしめうの所有を盡くうの手に委たり五彼ヨセフにうの家とうの有る凡
の物をつかさどらせし時よりしてエホバヨセフのために其エジプト人の
六 家を祝みたまふ卽ちエホバの祝福かれが家と田に有る凡の物におよぶ六

七 彼うの有る物をことごとくヨセフの手にゆだねうの食ふパンの外は何を
八 もかへりみざりき夫ヨセフは容貌麗しくして顏美しかりきセ これらの事
九 の後うの主人の妻ヨセフに目をつけて我と寢よといふハヨセフ拒みて主
人の妻にいひけるは視よわが主人家の中の物をかへりみずうの有るもの
十 ことごとくわが手に委ぬルこの家には我より大なるものなし又主人何を
も我に禁せず只汝を除くのみ汝はうの妻なれば然ば我いかで此おほ
十一 いなる惡をなして神に罪ををかすをえんや十彼日々にヨセフに言よりた
れどもヨセフきかずして之といねず亦與にをらざりき十二當時ヨセフうの
十二 職をなさんとて家にいりしが家の人一箇もうの內にをらざりき十三時に彼
婦うの衣を執て我といねよといひけれバヨセフ衣を彼の手に棄おきて外
十三 に遁いでたり十三彼ヨセフがうの衣を己の手に棄おきて遁いでしを見て十四
うの家の人々を呼てこれにいふ視よヘブル人を我等の所につれ來て我等
にたいむれしむ彼我といねんとて我の所にいり來しかば我大聲によば

十五 れり十五彼わが聲をあげて呼いるを聞しかばうの衣をわが許にすておき
十六 十七 外に遁いでたりと十六其衣を傍に置て主人の家に歸るを待つ十七かくて彼是
言のごとく主人につげていふ汝が我らに携へきたりしヘブルの僕われに
十八 たいむれんとて我許にいりきたりしが十八我聲をあげてよばゝりしかば
十九 の衣を我許にすておきて遁いでたり十九主人うの妻が己につげて汝の僕斯
二十 のごとく我になせりといふ言を聞て怒を發せり二十是に於てヨセフの主人
彼を執へて獄にいる其獄ゝ王の囚徒を繫ぐ所なりヨセフ彼處にて獄にを
二一 りしが二一エホバヨセフとゝもに在して之に仁慈を加へ典獄の恩顧をこれ
二二 に乞させたまひけれバ二二典獄獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付
二三 せたり其處になす所の事ゝ皆ヨセフこれをなすなり二三典獄うのまかせた
る所の事ゝ何をもかへりみざりき其ゝエホバヨセフとゝもにいませバな
りエホバかれのなすところをさかえしめたまふ

第四十章

一 これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫うの主エジプト王に罪

二 三 四 をかすニパロうの二人の臣すなわち酒人の長と膳夫の長を怒りて三之
を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚ふヨセフが擊れをる所なり四侍衛の長
ヨセフをして彼等の側に侍しめたれバヨセフ之につかふ彼等幽囚れて日
五 六 七 を經たり五茲に獄に繫れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜
の中に各夢を見たりうの夢おのゝゝうの解明にかなふ六ヨセフ朝に及
びて彼等の所に入て視るに彼等物憂に見ゆ七是に於てヨセフうの主人の
八 家に己とゝもに幽囚をるパロの臣に問て汝等なにゆゑに今日ゝ顏色あし
きやといふに八彼等これにいふ我等夢を見たれど之を解く者なしとヨセ
九 フ彼等にいひけるゝ解く事ゝ神によるにあらずや請ふ我に述よ九酒人の
長うの夢をヨセフに述て之にいふ我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹
十 ありゝうの樹に三の枝わり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たる
十一 がごとくなりき十一時にパロの爵わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの
十二 爵に搾りうの爵をパロの手に奉たり十二ヨセフかれにいひけるゝうの解明

十三 い是のごとし三の枝い三日なり十三今より三日の中にパロなんぢの首を擧
げ汝を故の所にかへさん汝い曩に酒人たりし時になせし如くパロの爵を
十四 うの手に奉ぐるにいたらん十四然ぺ請ふ汝善ならん時に我をおもひて我に
十五 恩惠をほどこし吾事をパロにのべてこの家よりわれを出せ十五我いまとに
ヘブル人の地より掠れ來しものなれぺまた此にても我い牢にいれら
十六 るゝがごとき事いなさゞりしなり十六茲に膳夫の長うの解明の善りしを見
十七 てヨセフにいふ我も夢を得て見たるに白きパン三筐わが首にありて十七う
の上の筐にい膳夫がパロのために作りたる各種の饌ありしが鳥わが首の
十八 筐の中より之をくらへり十八ヨセフこたへていひけるいうの解明いかくの
十九 ごとし三の筐い三日なり十九今より三日の中にパロ汝の首を擧はなして汝
二十 を木に懸んをかして鳥汝の肉をくらひとるべしと二十第三日いパロの誕辰
なれぺパロうの諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をう
二一 の臣僕の中に擧しむ二即ちパロ酒人の長をその職にかへしければ彼爵を

二二 パロの手に奉たり三されど膳夫の長い木に懸らるヨセフの彼等に解明せ
二三 るがごとし三然るに酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

第四十一章

二 二年の後パロ夢ることあり即ち河の濱にたちて二視るに七の
美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食ふ三うの後また七の醜き痩たる
牛河よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが四うの醜き痩たる牛かの
美き肥たる七の牛を食ひつくせりパロ是にいたりて寤む五彼また寐て再
び夢るに一の莖に七の肥たる佳き穗いできたりしが六うの七の穗いできたりし
風に燒たる七の穗い七の肥たる穗かの七の肥實
りたる穗を呑盡せりパロ寤て見に夢なりき七パロ朝におよびてうの心安
からず人をつかいしてエジプトの法術士とうの博士を皆こと〴〵く召し
之にうの夢を述たり然ぺ之をパロに解うる者なかりき八時に酒人の長パ
ロに告ていふ我今日わが過をおもひいづ十嘗てパロうの僕を怒て我と膳
夫の長を侍衛の長の家に幽囚ひたまひし時十二我と彼ともに一夜のうちに

十二 夢み各ゝの解明にかなふ夢をみたりしが十二彼處に侍衛の長の僕なる若き
ヘブル人我らと偕にあり我等これにのべたれゞ彼われらの夢を解うの夢
十三 に云たがひて各人に解明をなせり十三云かして其事かれが解たるごとくな
十四 りて我いわが職にかへり彼い木に懸らる十四是に於てパロ人をやりてヨセ
フを召しけれゞ急ぎてこれを獄より出せりヨセフすなわち鬚を薙り衣を
十五 かへてパロの許にいり來る十五パロヨセフにいひけるい我夢をみたれゞ之
十六 をとく者なし聞に汝い夢をきゝて之を解くことをうると云ふ十六ヨセフパ
ロにこたへていひけるい我によるにあらず神パロの平安を告たまわん十七
十七 パロヨセフにいふ我夢に河の岸にたちて見るに十八河より七の肥たる美し
十八 き牝牛のぼりて葦を食ふ十九後また弱く甚だ醜き瘠たる七の牝牛のぼりき
十九 たる其惡き事エジプト全國にわが未だ見ざるほどなり二十うの瘠たる醜き
二十 牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりしが二一己に腹にいりても其腹にい
二一 りし事しれず尚前のごとく醜かりき我是にいたりて寤めれり二二我また夢

二三 に見るに七の實たる佳き穗一の莖にいできたる二三その後にまたいぢけ萎
二四 びて東風にやけたる七の穗生じたりしが二四その惡なびたる穗かの七の佳
穗を呑つくせり我これを法術士に告たれどもわれにこれを云めすものな
二五 し二五ヨセフパロにいひけるいパロの夢い一なり神うの爲んとする所をパ
二六 ロに示したまへるなり二六七の美牝牛い七年七の佳穗も七年にして夢い一
二七 なり二七其後にのぼりし七の瘠たる醜き牛い七年にしてうの東風にやけた
二八 る七の空穗い七年の饑饉なり二八是いわがパロに申すところなり神うのな
二九 さんとするところをパロに云めしたまふ二九エジプトの全地に七年の大な
三十 る豐年あるべし三十うの後に七年の凶年おこらん而してエジプトの地にわ
三一 すれ豐作を皆忘るにいたるべし饑饉國を滅さん三一後にいたるうの饑饉は
三二 なはだはげしきにより前の豐作國の中に知れざるにいたらん三二パロのふ
たゝび夢をかさねて見たまひしい神がこの事をさだめて速に之をなさんと
三三 云たまふなり三三されゞパロ慧く賢き人をえらみて之にエジプトの國を治

三四 めしめたまふべし三四パロこれをなし國中に官吏を置てうの七年の豊年の
三五 中にエジプトの國の五分の一を取たまふべし三五而して其官吏をして來ら
んとするうの善き年の諸の糧食を斂めてうの穀物をパロの手に蓄へしめ
三六 糧食を邑々にかこい玄めたまふべし三六うの糧食を國のために蓄藏へおき
てエジプトの國にのぞむ七年の饑饉に備へ國をして饑饉のために滅ざら
三七 玄むべし三七パロとその諸の臣僕此事を善とす三八是に於てパロうの臣僕に
三八 いふ我等神の靈のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと三九玄かし
三九 てパロヨセフにいひけるn神是を盡く汝に玄めしたまひたれば汝のごと
四十 く慧く賢き者なかるべし四十汝わが家を宰るべしわが民みな汝の口に玄た
がn唯位においてのみ我n汝より大なるべし四一パロヨセフにいひける
四一 n視よ我汝をエジプト全國の家宰となすと四二パロすなわち指環をその手
四二 より脫して之をヨセフの手にはめ之に白布を衣せ金の索をその項にかけ
四三 之をして己のもてる次の輅に乘しめ下にゐよと其前に呼しむ是彼をエ

四四 ジプト全國の家宰となせり四四パロヨセフにいひけるn我nパロなりエジ
四五 プト全國に汝の允准をえずして手足をわぐる者なかるべしと四五パロヨセ
フの名をザフナテパチアと名けまたオンの祭司ポテパルの女アセナテを
四六 之にあたへて妻となさしむヨセフいでゝエジプトの地をめぐる四六ヨセフ
nエジプトの王パロのまへに立し時三十歳なりきヨセフパロのまへを出
四七 て遍くエジプトの地を巡れり四七七年の豊年の中に地山なして物を生ず四八
四八 ヨセフすなわちエジプトの地にありしうの七年の糧食を斂てうの糧食を
四九 邑々に藏む即ち邑の周圍の田圃の糧食を其邑の中に藏む四九ヨセフ海隅の
沙のごとく甚だ多く穀物を儲へ遂に數ふることをやむるに至る其n數か
五十 ざり無れバなり五十饑饉の歲のいたらざる前にヨセフに二人の子うまる是
五一 nオンの祭司ポテパルの女アセナテの生たる者なり五一ヨセフうの冢子の
名をマナセ(忘)となづけて言ふ神我をしてわが諸の苦難とわが父の家の
五二 凡の事をわすれしめたまふと五二又次の子の名をエフライム(多く生る)と

なづけていふ神われをしてわが艱難の地にて多くの子をえせしめたまふ
五三 五四 と五三爰にエジプトの國の七年の豊年をハり五四ヨセフの言しごとく七年の
凶年きたりはじむろの饑饉ハ諸の國にあり然どエジプト全國にハ食物あ
五五 りき五五エジプト全國饑し時民さけびてパロに食物を乞ふパロエジプトの
五六 諸の人にいひけるハヨセフに往け彼が汝等にいふところをなせと五六饑饉
全地の面にありヨセフすなハち諸の倉廩をひらきてエジプト人に賣わた
五七 せり饑饉ます〳〵エジプトの國にはげしくなる五七饑饉諸の國にはげし
くなりしかバ諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて穀物を買ふ

第四十二章

一 ヤコブエジプトに穀物あるを見しかバろの子等にいひけるハ
二 汝等なんぞたがひに面を見あハするや二ヤコブまたいふ我エジプトに穀
物ありと聞り彼處にくだりて彼處より我等のために買きたれ然らバわれ
三 ら生るを得て死をまぬかれんと三ヨセフの十人の兄弟エジプトにて穀物
四 をかハんとて下りゆけり四されどヨセフの弟ベニヤミンハヤコブこれ

をろの兄弟とゝもに遣さゞりきおろらくハ災難かれの身にのぞむことあ
五 らんと思たれバなり五イスラエルの子等穀物を買んとて來る者とゝもに
六 來る其ハカナンの地に饑饉ありたれバなり六時にヨセフハ國の總督にし
て國の凡の人に賣ことをなせりヨセフの兄弟等來りてろの前に地に伏て
七 拜す七ヨセフろの兄弟を見てこれを知たれども知ざる者のごとくして荒
〳〵しく之にものいふ即ち彼等に汝等ハ何處より來れるやといへバ彼等い
八 ふ糧食を買んためにカナンの地より來れりと八ヨセフハろの兄弟をしり
九 たれども彼等ハヨセフをしらざりき九ヨセフろの昔に彼等の事を夢たる
夢を憶いだし彼等にいひけるハ汝等ハ間者にして此國の隙を窺んとて來
十 れるなり十彼等之にいひけるハわが主よ然らず唯糧食をかハんとて僕等
十一 ハ來れるなり十一我等ハみな一箇の人の子にして篤實なる者なり僕等ハ間
十二 者にあらず十二ヨセフ彼等にいひけるハ否汝等ハ此地の隙を窺んとて來れ
十三 るなり十三彼等いひけるハ僕等ハ十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の

十四 人の子なり季子ハ今日父とゝもにをる又一人ハをらずなりぬ十四ヨセフか
れらにいひけるハわが汝等につげて汝等ハ間者なりといひしハこの事な
十五 り十五汝等斯してうの眞實をわかすべしパロの生命をさして誓ふ汝等の末
十六 弟こゝに來るにあらざれバ汝等ハ此をいづるをえじ十六汝等の一人をやり
て汝等の弟をつれきたらしめよ汝等をば繫ぎおきて汝等の言をためし汝
らの中に眞實あるや否をみんパロの生命をさして誓ふ汝等ハかならず間
十七 十八者なりと十七彼等を皆ともに三日のあひだ幽囚おけり十八三日におよびてヨ
セフかれらにいひけるハ我神を畏る汝等もし
十九 篤實なる者ならバ汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繫れしめ汝等ハ穀物
をたづさへゆきてなんぢらの家々の饑をすくへ二十但し汝らの末弟を我
二十 につれきたるべしさすればなんぢらの言の眞實あらわれて汝等死をまぬ
二一 かるべし彼等すなハち斯なせり二一茲に彼らたがひに言けるハ我等ハ弟の
事によりて信に罪あり我等ハ彼が我らに只管にねがひし時にうの心の苦

二二 を見ながら之を聽ざりき故にこの苦われらにのぞめるなり二二ルベンかれ
らに對ていひけるハ我なんぢらにいひて童子に罪をかすなかれといひ
しにあらずや然るに汝等きかざりき是故に視よ亦彼の血をながせし罪を
二三 たゞさるると二三彼等ハヨセフが之を解するを玄らざりき其ハ互に通辨をも
二四 ちひたれバなり二四ヨセフ彼等を離れゆきて哭き復かれらにかへりて之と
二五 かたり遂にシメオンを彼らの中より取りうの目のまへにて之を縛れり二五
而してヨセフ命じてうの器に穀物をみたしめ其人々の金を囊に返さしめ
二六 又途の食を之にあたへしむヨセフ斯かれらになせり二六彼等すなハち穀物
二七 を驢馬におハせて其處をさりしが二七其一人旅邸にて驢馬に糧を與んとて
二八 囊をひらき其金を見たり其ハ囊の口にありけれバなり二八彼ろの兄弟にい
ひけるハ吾金ハ返してあり視よ囊の中にありと是において彼等膽を消し
懼れてたがひに神の我らになしたまふ此事ハ何ぞやといへり二九かくて彼
等カナンの地にかへりて父ヤコブの所にいたり其身にありし事等を悉く

三十 之につげていひけるハ三十彼國の主荒々しく我等にものいひ我らをも
三一 て國を偵ふ者となせり三一我ら彼にいふ我等ハ篤實なる者なり間者にあらず三二
三二 我らい十二人の兄弟にして同じ父の子なり一人ハをらずなり季のハ今日
三三 父とゝもにカナンの地にありと三三國の主なるうの人われらにいひけるハ
我かくして汝等の篤實なるをしらん汝等の兄弟の一人を吾もとにのこし
糧食をたづさへゆきて汝らの家々の饑をすくへ三四去かして汝らの季の弟
三四 をわが許につれきたれ然れバ我なんぢらが間者にあらずして篤實なる者
たるをしらん我なんぢらの兄弟を汝等に返し汝等をしてこの國にて交易
三五 をなさしむべしと三五茲に彼等うの嚢を傾たるに視よ各人の金包うの嚢の
なかにあり彼等とうの父金包を見ておうれたり三六うの父ヤコブ彼等にい
三六 ひけるハ汝等ハ我をして子を喪ハしむヨセフハをらずなりシメオンもを
三七 らずなりたるにまたベニヤミンを取んとす是みなわが身にかゝるなり三七
ルベン父に告ていふ我もし彼を汝につれかへらずバ吾ふたりの子を殺せ

三八 彼をわが手にわたせ我之をなんぢにつれかへらん三八ヤコブいひけるハわ
が子ハなんぢらとゝもに下るべからず彼の兄ハ死て彼ひとり遺たれバな
り若なんぢらが行ところの途にて災難かれの身におよバゞ汝等ハわが白
髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらん

第四十三章　饑饉うの地にはげしかりき三茲に彼等エジプトよりもちきた
一 りし穀物を食つくせし時父かれらに再びゆきて少許の糧食を買きたれと
二 いひけれバ三ユダ父にかたりていひけるハ彼人かたく我等をいましめて
三 いふ汝らの弟汝らとゝもにあるにあらざれバ汝らハわが面をみるべか
四 らずと四汝もし弟をわれらとともにつかハさずハ我等くだらざるべし其ハかの人
五 ふべし五されど汝もし彼をつかハさずハ我等くだらざるべし其ハかの人
われらにむかひ汝等の弟なんぢらとゝもにあらざれバ汝ら吾面を
六 みるべからずといひたれバなりと六イスラエルいひけるハ汝等なにゆゑ
に汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を惡くなすや七彼等いふ其人
七

われらの模樣とわれらの親族を問たゞして汝らの父ゝ尚生存へをるや汝
等ゝ弟をもつやといひしにより其言の條々に応たがひて彼につげたるな
り我等いかでか彼が汝等の弟をつれくだれといふならんと応るをえん 八
ユダ父イスラエルにいひけるゝ童子をわれとゝもに遣ゝせ我等たちて往
ん然らゞ我等と汝およびわれらの子女生ることを得て死をまぬかるべし 九
我彼の身を保ゝん汝わが手にかれを問へ我もし彼を汝につれかへりて
汝のまへに置ずゞ我永遠に罪をおはん＋我等もし濡滞ことなかりしなら
ゞ必ずすでにゆきて再びかへりしならん＋一父イスラエル彼等にいひける
ゝ然ゞ斯なせ汝等國の名物を器にいれ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳
香少許、蜜少許、香物、沒藥、胡桃および巴旦杏＋二又手に一倍の金を取ゆけ
汝等の囊の口に返してありし彼金を再び手にたづさへゆくべし恐くハ差
謬にてありしならん＋三且また汝らの弟を擧へ起てふたゝび其人の所にゆ
け＋四ねがハくハ全能の神ゝの人のまへにて汝等を矜恤みゝの人をして汝

等の他の兄弟とベニヤミンを放ちかへさしめたまハんことを若われ子に
別るべくあらゞ別れんと＋五是に於てかの人々ゝの禮物を執り一倍の金を
手に執りベニヤミンを携へて起てエジプトにくだりヨセフの前に立つ＋六
ヨセフベニヤミンの彼らと偕なるを見てゝの家宰にいひけるハこの人々
を家に導き畜を屠て備へよこの人々卓午に我とゝもに食をなすべければ
なり＋七其人ヨセフのいひしごとくなし其人この人々をヨセフの家に導け
り＋八人々ヨセフの家に導かれたるによりて懼れいひけるゝ初めにわれら
の嚢にかへりてありし金の事のために我等はひきいれらる是われらを抑
留へて我等にせまり執へて奴隷となし且われらの驢馬を取んとするなり
と＋九彼等すなハちヨセフの家宰に進みよりて家の入口にて之にかたりて
二十いひけるは主よ我等實に最初くだりて糧食を買たり二十一玆かるに我等旅
邸に至りて嚢を啓き見るに各人の金ゝの嚢の口にありて其金の量全かり
し然ゞ我等これを手にもちかへれり二十二又糧食を買ふ他の金をも手にもち

二三 くだる我等の金を嚢にいれたる者ゐ誰なるかわれらは知ざるなり二三彼い
ひけるゐ汝ら安せよ懼るなかれ汝らの神汝らの父の神財寶を汝等の嚢に
おきて汝らに賜ひしなり汝らの金ゐ我にとゞけりと遂にシメオンを彼等
二四 の所にたづさへいだせり二四かくて其人この人々をヨセフの家に導き水を
あたへてうの足を濯ゐしめ又うの驢馬に飼草をわたふ二五彼等其處にて食
二五 をなすなりと聞しかゞ禮物を調へてヨセフの日午に來るをまつ二六茲にヨ
二六 セフ家にかへりしかゞ彼等うの手の禮物を家にもちきたりてヨセフの許
二七 にいたり地に伏てこれを拜す二七ヨセフかれらの安否をとふていふ汝等の
父汝らが初にかたりしうの老人ゐ恙なきや尚いきながらへをるや二八彼等
二八 こたへてわれらの父汝の僕ゐ恙なくしてなほ生ながらへをるといひ身を
かゞめ禮をなす二九ヨセフ目をあげてうの母の子なる己の弟ベニヤミン
二九 を見ていひけるゐ是ゐ汝らが初に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや又
いふわが子よ願ゐくゐ神汝をめぐみたまへんことをと三十ヨセフうの弟の
三十

三一 ために心焚るがごとくなりしかゞ急ぎてうの泣べきところを尋ね室にい
三二 りて其處に泣り三二而して面をあらひて出で自から抑へて食をそなへよと
いふ三三すなはちヨセフゐヨセフ彼等ゐ彼等陪食するエジプト人はエジプ
ト人と別々に之を供ふ是ゐエジプト人へブル人と共に食することをえざ
るによる其事エジプト人の穢ゐしとするところなれゞなり三三かくて彼等
三三 ヨセフの前に坐るに長子をゞうの長たるに次たがひて坐らせ若き者をゞ
うの幼少に次たがひてすわらせけれゞうの人々駭きあへり三四ヨセフ己の
三四 まへより皿を彼等に供ふベニヤミンの皿ゐ他の人のよりも五倍おほかり
きかれら飲てヨセフとゝもに樂めり

第四十四章

一 一爰にヨセフうの家宰に命じていふこの人々の嚢にうの負うる
二 ほど糧食を充せ各人の金をうの嚢の口に置れ二またわが杯すなわち銀の
杯を彼の少き者の嚢の口に置てうの穀物の金子とゝもにあらしめよと彼
三 ヨセフがいひし言のごとくなせり三かくて夜のあくるにおよびてうの人

四 々と驢馬をかへしけるが 四 かれら城邑をいでゝなほ程とほからぬにヨセ
フ家宰にいひけるゐ起てかの人々の後を追ひおひつきし時之にいふべし
五 汝らなんぞ惡をもて善にむくゆるや 五 其ゐわが主がもちひて飲み又用ひ
て常にトふ者にあらずや汝らかくなすゐ惡しと 六 是に於て家宰かれらに
おひつきてこの言をかれらにいひければ 七 かれら之にいふ主なにゆゑに
是事をいひたまふや僕等きめてこの事をなさず 八 視よ我らの嚢の口に
ありし金はカナンの地より汝の所にもちかへれり然ば我等いかで汝の主
の家より金銀をぬすまんや 九 僕等の中誰の手に見あたるも其者ゐ死べし
我等またわが主の奴隷となるべし 十 彼いひけるゐさらば汝らの言のごと
くせん其の見あたりし者ゐわが奴隷となるべし汝等ゐ咎なしと 十一 是にお
いて彼等急ぎて各うの嚢を地におろし各うの嚢をひらきたかば 十二 彼すな
ゐち索し長者よりはじめて少者にをはるまで杯ゐベニヤミンの嚢ふありき
十三 斯有しかど彼等うの衣を裂きおの〳〵うの驢馬に荷を負せて邑にかへ

十四 る 十四 ときかしてユダとうの兄弟等ヨセフの家にいたるにヨセフなほ其處ゐ
十五 をりしかばうの前に地に伏す 十五 ヨセフかれらにいひけるゐ汝等がなした
十六 るこの事ゐ何ぞや我のごとき人ゐ善くトひうる者なるを汝らざるや 十六 ユ
ダいひけるゐ我等主に何をいはんや何をのべんや如何にしてわれらの正
直をあらはさんや神僕等の罪を摘發したまへり然ば我等およびこの杯の
見あたりし者倶に主の奴隷となるべし 十七 ヨセフいひけるゐきわめて然せ
じ杯の手に見あたりし人ゐわが奴隷となるべし汝等ゐ安然に父にかへり
のぼるべし 十八 時にユダかれに近よりていひけるゐわが主よ請ふ僕をして
主の耳に一言いふをえせしめよ僕にむかひて怒を發したまふなかれ汝ゐ
パロのごとくにいますなり 十九 昔にわが主僕等に問て汝等ゐ父あるや弟あ
るやといひたまひしかば 二十 我等主にいへり我等にわが父あり老人なり又
ろうの老年子なる少者ありろうの兄ゐ死てろうの母の遺せるゐ只是のみ故に父
これを愛すと 二一 汝また僕等にいひたまひく彼を我許ゐつれくだり我をし

二二 て之に目をつくることをえせしめよと二三われら主ゐいへり童子父を離る
二三 をえず若父をはなるゝならバ父死べしと二三汝また僕等にいひたまへく汝
らの季の弟汝等とゝもに下るゐあらざれバ汝等ふたゝびわが面を見る
二四 べからずと二四我等すないちなんぢの僕わが父の所にかへりのぼりて主の
二五 言をこれに告たり二五我らの父再びゆきて小許の糧食を買きたれといひけ
二六 れバ二六我らいふ我らくだりゆくことをえずわれらの季の弟われらと共ゐ
あらバ下りゆくべし其い季の弟われらと共にあるゐあらざれゝ彼人の面
二七 をみるをえざれバなりと二七なんぢの僕わが父われらゐいふ汝らの妄るお
二八 とく吾妻われに二人を生しが二八うの一人出てわれをはなれたれバ必ず裂
二九 ころされしならんと思へり我今にいたるまで彼を見ず二九なんぢら是をも
我側より取ゆかんに若災害是の身におよぶあらバ遂ゐわが白髪をして悲
みて墓にくだらしむるにいたらんと三十 抑父の生命と童子の生命とい相
結びてあれバ我なんぢの僕わが父に歸りいたらん時に童子もしわれらと

三一 共に在ずバ如何ぞや三一父童子の在ざるを見バ死るにいたらん然れバ僕等
三二 なんぢの僕われらの父の白髪をして悲みて墓にくだらしむるなり三二僕わ
三三 が父に童子の事を保ひて我もし是を汝につれかへらずバ永久に罪を父に
三四 負んといへり三三されバ請ふ僕をして童子にかわりをりて主の奴隷とならし
め童子をしてうの兄弟とゝもに歸りのぼらしめたまへ三四我いかでか童
子を伴いずして父の許に上りゆくべけん恐くい災害の父におよぶを見ん

第四十五章

一 茲にヨセフうの側にたてる人々のまへにて自ら禁ぶあたいざ
るに至りければ人皆われを離ていでよと呼れり是をもてヨセフが己を
二 兄弟にあかしたる時一人も之とともにたつものなかりき二ヨセフ聲をあ
三 げて泣りエジプト人これを聞きバロの家またこれを聞く三ヨセフすない
ちうの兄弟にいひけるい我いヨセフなりわが父いなほ生ながらへをるや
四 と兄弟等うの前に愕き懼れて之にこたふるをえざりき四ヨセフ兄弟にい
ひけるい請ふ我にちかよれとかれらすないち近よりければ言ふ我いなん

五 ぢらの弟ヨセフなんぢらがエジプトにうりたる者なり五されど汝等我
をこゝに賣しをもて憂ふるなかれ身を恨るなかれ神生命をすくひ玄めん
六 とて我を汝等の前につかはしたまへるなり六この二年のあひだ饑饉國の
七 中にありしが尚五年の間耕すことも穫ることもなかるべし七神汝等の後を
八 地につたへんため又大なる救をもて汝らの生命を救はんために我を汝等
の前に遣したまへり八然ば我を此につかはしたる者は汝等あらず神
九 なり神われをもてパロの父となしその全家の主となしエジプト全國の宰
となしたまへり九汝等いそぎ父の許にのぼりゆきて之にいへ汝の子ヨセ
十 フかく言ふ神われをエジプト全國の主となしたまへりわが所にくだれ遲
十一 疑なかれ十汝ゴセンの地に住べし斯汝と汝の子と汝の子の子およびなん
ぢの羊と牛並に汝のすべて有ところの者われの近方にあるべし十一なほ五
十二 年の饑饉あるにより我其處にてなんぢを養はん恐くは汝となんぢの家族
およびなんぢの凡て有ところの者貧乏ならん十二汝等の目とわが弟ベニ

十三 ヤミンの目の覩るごとく汝等にこれをいふ者いわが口なり十三汝等わがエ
十四 ジプトにて享る顯榮となんぢらが見たる所とを皆悉く父につげよ汝ら急
十五 ぎて父を此にみちびき下るべし十四而してヨセフ乃の弟ベニヤミンの頸
を抱へて哭にベニヤミンもヨセフの頸をかゝへて哭く十五ヨセフ亦乃の諸
十六 の兄弟に接吻し之をいだきて哭くに是のち兄弟等ヨセフと言ふ十六竝にヨセ
十七 フの兄弟等きたれりといふ聲パロの家にきこえければパロとその臣僕こ
十八 れを悦ぶ十七パロすなわちヨセフにいひけるは汝の兄弟に言べし汝等かく
爲せ汝等の畜に物を負せ往てカナンの地に至り十八なんぢらの父となんぢ
十九 らの家族を携へて我にきたれ我なんぢらにエジプトの地の嘉物をあたへ
ん汝等國の膏腴を食ふことをうべしと十九今汝命をうく汝等かく爲せ汝等
エジプトの地より車を取ゆきてなんぢらの子女と妻等を載せ汝等の父を
二十 導きて來れ二十また汝等の器を惜み視るなかれエジプト全國の嘉物は汝ら
二一 の所屬なれをなり二一イスラエルの子等すなわち斯なせりヨセフパロの命

二二 にしたがひて彼等に車をあたへかつ途の餱糧をかれらにあたへたり二二又
かれらに皆おの〳〵衣一襲を與へたりしがベニヤミンには銀三百と衣五
二三 襲をあたへたり二三彼また斯のごとく父に餽れり即ち驢馬十疋にエジプト
の嘉物をおハせ牝の驢馬十疋に父の途の用に供ふる穀物と糧と肉をおハ
二四 せて餽れり二四斯して兄弟をかへして去しめ之にいふ汝等途にて相あらう
二五 ふなかれと二五かれらエジプトより上りてカナンの地にゆきうの父ヤコブ
二六 にいたり二六之につげてヨセフハ尚いきてをりエジプト全國の宰となりを
るといふしかるにヤコブの心なほ寒冷なりき其ハこれを信ぜざれバなり
二七 二七彼等またヨセフの己にいひたる言をことゞく之につげたりうの父ヤ
コブヨセフがおのれを載んとておくりし車をみるにおよびて其氣おのれ
二八 にかへれり二八イスラエルすなハちいふ足りわが子ヨセフなほ生をるわれ
死ざるまへに往て之を視ん

第四十六章

一 イスラエルうの己につける諸の者とゝもに出たちベエルシバ

二 にいたりてうの父イサクの神に犧牲をさゝぐ二神夜の異象にイスラエル
三 にかたりてヤコブよヤコブよといひたまふ三ヤコブわれ此にありといひ
けれバ神いひたまふ我は神なり汝の父の神なりエジプトにくだることを
四 懼るなかれわれ彼處にて汝を大なる國民となさん四我汝とゝもにエジプ
トに下るべし亦かならず汝を導のぼるべしヨセフ手をなんぢの目の上に
五 おかんと五かくてヤコブベエルシバをたちいでたりイスラエルの子等す
なハちパロの載んとておくりたる車に父ヤコブと己の子女と妻等を載せ
六 六うの家畜とカナンの地にてえたる貨財をたづさへ斯してヤコブとうの
七 子孫皆ともにエジプトにいたれり七ヤコブかくうの子と子の子およびう
八 の女と子の女すなハちうの子孫を皆ともなひてエジプトにつれゆけり八
イスラエルの子のエジプトにくだれる者の名ハ左のごとしヤコブとうの
九 子等ヤコブの長子ハルベン九ルベンの子ハヘノクパルヘヅロンカルミ
十 十シメオンの子ハヱムエルヤミンオハデヤキンゾハルおよびカナンの

十一 婦のうめる子シヤウル十二レビの子ハゲルションコハテメラリ十三ユダの
十二 子はエルオナンシラペレヅゼラ但しエルとオナンハカナンの地に死た
十三 りペレヅの子ハヘヅロンおよびハムルなり十四イツサカルの子トラプワ
十四 ヨブシムロン十四ゼブルンの子はセレデエロンヤリエルなり十五是等およ
十五 び女子デナはレアがパダンアラムにてヤコブにうみたる者なりうの男子
十六 女子あはせて三十三人なりき十六ガドの子ゼポンハギシユニエヅボン
十七 エリアロデアレリ十七アセルの子ヱムナイシワイスイベリアおよびう
十八 の妹サラ並にベリアの子ヘベルとマルキエルなり十八是等ハラバンがう
十九 の女レアにあたへたるジルパの子なり彼是等をヤコブにうめり都合十六
二十 人十九ヤコブの妻ラケルの子ハヨセフとベニヤミンなり二十エジプトの國に
二一 てヨセフにマナセとエフライムうまれたり是はオンの祭司ポテパルの女
二二 アセナテが生たる者なり二一ベニヤミンの子ハベラベケルアシベルゲラ
二三 ナアマンエヒロシムツピムホパムアルデ二三是等ハラケルの子にしてヤ

二四 コブにうまれたる者なり都合十四人二五ダンの子ハホシム二六ナフタリの子
二五 ハヤジエルグニエゼルシレム二五是等ハラバンがうの女ラケルにあたへ
二六 たるビルハの子なり彼これらをヤコブの子の妻をのぞきて六十六人なりき是
二七 にエジプトにいたりし者ハヤコブの子ヨセフとふたりにて二七エジプトにうまれたる子
二八 皆ヤコブの身よりいでたる者なり二七エジプトにてヨセフにうまれたる子
二九 二人ありヤコブの家の人のエジプトにいたりし者ハあはせて七十人なり
三十 き二八ヤコブ預じめユダをヨセフにつかはしおのれをゴセンにみちびかし
三一 む而して皆ゴセンの地にいたる二九ヨセフうの車を整へゴセンにのぼりて
三二 父イスラエルを迎へ之にまみえてうの頸を抱き頸をかゝへて久く啼く三十
イスラエルヨセフにいふ汝なほ生てをり我汝の面を見ることをえたれば
今ハ死るも可しと三一ヨセフうの兄弟等と父の家族とにいひけるハ我のぼ
りてパロにつげて之にいふべしわが兄弟等とわが父の家族カナンの地に
をりし者我のところに來れり三二うの人々ハ牧者にして牧畜の人なり彼等

三三 ろの羊と牛およびろの有る諸の物をたづさへ來れりと三三パロもし汝等を
三四 召て汝等の業ハ何なるやと問ことあらバ三四僕等ハ幼少より今にいたるま
で牧畜の人なり我等も先祖等もともにしかりといへしからバなんぢらゴ
センの地にすむことをえん牧者ハ皆エジプト人の穢ハしとするものなれ
バなり

一 **第四十七章** 茲にヨセフゆきてパロにつげていひけるハわが父と兄弟およ
びろの羊と牛と諸の所有物カナンの地よりいたれり彼らハゴセンの地に
二三 をるとニろの兄弟の中より五人をとりてこれをパロにまみえしむ三パロ
ヨセフの兄弟等にいひけるは汝らの業ハ何なるか彼等パロにいふ僕等ハ
四 牧者なりわれらも先祖等もともにしかりと四かれら又パロにいひけるハ
此國に寓らんとて我等ハきたる其ハカナンの地に饑饉はげしくして僕等
の群をやしなふ牧場なければなりされバ請ふ僕等をしてゴセンの地にす
五 ましめたまへ五パロヨセフにかたりていふ汝の父と兄弟汝の所にきたれ

六 り六エジプトの地ハなんぢの前にあり地の善き處に汝の父と兄弟をすま
しめよすなハちゴセンの地にかれらをすましめよ汝もし彼等の中に才能
七 ある者あるをしらバ其人々をしてわが家畜をつかさどらしめよ七ヨセフ
八 また父ヤコブを引ていりパロの前にたゝしむヤコブパロを祝す八パロヤ
九 コブにいふ汝の齡の日ハ幾何なるか九ヤコブパロにいひけるハわが旅路
の年月ハ百三十年にいたる我が齡の日ハ僅少にして且惡かり未だわが先
十 祖等の齡の日と旅路の日にハおよバざるなり十ヤコブパロを祝しパロの
十一 まへよりいでさりぬ十一ヨセフパロの命せしごとくろの父と兄弟に居所を
與へエジプトの國の中の善き地卽ちラメセスの地をかれらにあたへて所
十二 有となさしむ十二ヨセフろの父と兄弟と父の全家にろの子の數にしたがひ
十三 て食物をあたへて養へり十三却說饑饉はなはだはげしくして全國に食物な
十四 くエジプトの國とカナンの國饑饉のために弱れり十四ヨセフ穀物を賣あた
へてエジプトの地とカナンの地にありし金をことごとく斂む而してヨセ

十五 フろの金をパロの家にもちきたる十五エジプトの國とカナンの國に金つきたればエジプト人みなヨセフにいたりていふ我等に食物をあたへよ如何ぞなんぢの前に死べけんや金すでにたえたり十六ヨセフいひけるわ汝等の家畜をいだせ金もしたえたらば我なんぢらの家畜にかへて與ふべしと十七かれら乃ちろの家畜をヨセフにひきゐたりければヨセフろの馬と羊の群と牛の群および驢馬にかへて食物をかれらにあたへろのすべての家畜のために其年のあひだ食物をあたへてこれをやしなふ十八かくてろの年暮けるが明年にいたりて人衆またヨセフにきたりて之にいふ我等主に隱すところなしわれらの金は竭たりまたわれらの畜の群わ主に皈す主のまへにいだすべき者わ何ものこりをらず唯われらの身体と田地あるのみ十九われらいかんぞわれらの田地とともに汝の目のまへに死亡ぶべけんや我等とわれらの田地を食物に易て買とれ我等田地とともにパロの僕とならんまた我等に種をあたへよ然ばわれら生るをえて死るにいたらず田地も荒蕪

二十 にいたらし二十是に於てヨセフエジプトの田地をことごとく購とりてパロに納る其わエジプト人饑饉にせまりて各人ろの田圃を賣たればなり是によりて地わパロの所有となれり二一また民わエジプトのこの境の極よりかの境の極の者までヨセフこれを邑々にうつせり二二但祭司の田地わ購とらざりき祭司わパロより祿をたまわりをればパロの與る祿を食たるによりてろの田地を賣ざればなり二三茲にヨセフ民にいひけるわ視よ我今日汝等と汝等の田地をかひてパロに納る視よこの種子を汝らに與ふ地に播べし二四玆かして收穫の五分の一をパロに輸し四分をなんぢらに取て田圃の種としなんぢらの食としなんぢらの家族と子女の食とせよ二五人衆いひけるわ汝われらの生命を拯ひたまへりわれら主のまへに恩をえんことをねがふ我等パロの僕となるべしと二六ヨセフエジプトの田地に法をたてろの五分の一をパロにをさめ玆むろの事今日にいたる唯祭司の田地のみパロの有とならざりき二七イスラエルエジプトの國に於てゴセンの地にすみ

二八 彼處に産業を穫ううの數增て大に殖たり二八ヤコブエジプトの國に十七年い
二九 きながらへたりヤコブの年齒の日ゝ合て百四十七年なりき二九イスラエル
死る日ちかよりければうの子ヨセフをよびて之にいひけるゝ我もし汝の
まへに恩を得るならば請ふなんぢの手をわが脾の下にいれ懇に眞實をも
三十 て我をあつかへ我をエジプトに葬るなかれ三十我ゝ先祖等とゝもに偃んて
とをねがふ汝われをエジプトより昇いだして先祖等の墓場にはうむれヨ
三一 セフいふ我なんぢが言るごとくなすべしと三一ヤコブまた我に誓へといひ
けれバすなゐち誓へりイスラエル床の頭にて拜をなせり

第四十八章

一 是等の事の後汝の父病にかゝるとヨセフに告る者ありければ
二 ヨセフ二人の子マナセとエフライムをともなひて至るニ人ヤコブに告て
汝の子ヨセフなんぢの許にきたるといひけれバイスラエル強て床に坐す
三 玄かしてヤコブヨセフにいひけるゝ昔に全能の神カナンの地のルズに
て我にあらわれて我を祝し四我にいひたまひけらく我なんぢをして多く

五 子をえせしめ汝をふやし汝を衆多の民となさん我この地を汝の後の子孫
にあたへて永久の所有となさしめんと五わがエジプトにきたりて汝に就
まへにエジプトにて汝に生れたる二人の子エフライムとマナセ是等ゝわ
六 が子となるべしルベンとシメオンのごとく是等ゝわが子とならん六是等
の後になんぢが得たる子ゝ汝のものとすべし又うの産業ゝうの兄弟の名
七 をもて稱へらるべし七我事をいふに我昔パダンより來れる時ラケル我
にしたがひをりて途にてカナンの地に死り其處ゝエフラタまで尙途の隔
あるところなりわれ彼處にてかれをエフラタの途にはうむれり（エフラ
八 タはすなはちベテレヘムなり）八斯てイスラエルヨセフの子等を見て是
等ゝ誰なるやといひけれバ九ヨセフ父にいふ是ゝ神の此にて我にたまひ
九 し子等なりと父すなゐちいふ請ふ彼らを我所につれきたれ我これを祝せ
んと十イスラエルの目は年齒のために昧て見るをえざりしがヨセフかれ
十 らをうの許ゐつれきたりけれバ之に接吻してこれを抱けり十一玄かしてイ

スラエルヨセフにいひけるは我なんぢの面を見るあらんとは思はざりし
十二 に視よ神なんぢの子をもわれにしめしたまふと十二ヨセフかれらをその膝
十三 の間よりいだし地に俯て拜せり十三しかしてヨセフエフライムを右の手に
執てヤコブの左の手にむかへしめマナセを左の手に執てヤコブの右の手
十四 にむかはしめ二人をみちびきてかれに就ければ十四イスラエル右の手をの
べて季子エフライムの頭に按き左の手をのべてマナセの頭におけりマナ
十五 セは長子なれども故にかくその手をおけるなり十五斯してヨセフを祝して
いふわが父アブラハムイサクの事へし神わが生れてより今日まで我をや
十六 しなひたまひし神十六我をして諸の災禍を贖はしめたまひし天使ねがはくは
是童子等を祝たまへねがはくは是等の者わが名とわが父アブラハムイ
サクの名をもて稱られんことをねがはくは是等地の中に繁殖るにいたれ
十七 十七ヨセフ父が右の手をエフライムの頭に按るを見てよろこばず父の手を
十八 あげてこれをエフライムは頭よりマナセの頭にうつさんとす十八ヨセフす

なはち父にいひけるは然にあらず父よ是長子なれば右の手をその頭に按
十九 たまへ十九父こばみていひけるは我知るわが子よわれしる彼も一の民とな
り彼も大なる者とならん然どもその弟は彼よりも大なる者となりてその
二十 子孫は多衆の國民となるべしと二十此日彼等を祝していふイスラエル汝を
指て人を祝し願くは神汝をしてエフライムのごとくマナセのごとくなら
しめたまへといふにいたらんとすなはちエフライムをマナセの先にたて
二一 たり二一イスラエルまたヨセフにいひけるは視よわれは死んされど神なん
二二 ぢらとともにいまして汝等を先祖等の國にみちびきかへりたまふべし二二
且われ一は分をなんぢの兄弟よりもおほく汝にあたふ是れわが刀と弓を
以てアモリ人の手より取たる者なり

第四十九章

一 ヤコブその子等を呼ていひけるは汝らあつまれ我後の日に汝
二 らが遇んところの事を汝等につげん二汝等つどひて聽けヤコブは子等よ
三 汝らは父イスラエルに聽け三ルベン汝はわが冢子わが勢わが力は始威光

四 れ卓越たる者權威れ卓越たる者なり 四 汝ハ水れ沸あがるがごとき者なれ
ば卓越を得ざるべし汝父れ床あのぼりて涜したれどなり嗚呼彼ハわが寢
五六 牀あのぼれり 五 シメオンレビハ兄弟なりうの劍ハ暴逆れ器なり 六 我魂よ
かれらの席にのぞむなかれ我寶よかれらの集會につらなるなかれ其ハ彼
七 等うの怒にまかせて人をころしうれ意にまかせて牛を筋截たれべなり 七
うの怒ハ烈かれべ詛ふべしうの憤ハ暴あれべ詛ふべし我彼らをヤコブれ
八九 中に分ちイスラエルれ中に散さん 八 ユダよ汝ハ兄弟の讃る者あり汝の手
ハあんぢれ敵れ頸を抑へんなんぢの父の子等なんぢの前に鞠ん 九 ユダハ
獅子の子れ如しわが子よ汝ハ所掠物をさきてかへりのぼる彼ハ牡獅子の
十 ごとく伏し牝獅れごとく蹲まる誰か之をおこすことをせん 十 杖ユダを離
れず法を立る者うの足の間をさることなくしてシロの來る時にまで
十一 およべん彼に諸の民あたがふべし 十一 彼うの驢馬を葡萄の樹に繫ぎうの牝
驢馬の子を葡萄の蔓に繫がん又うの衣を酒にあらひ其服を葡萄の汁にあ

十二 らふべし 十二 うの目ハ酒によりて紅くうの齒ハ乳によりて白し 十三 ゼブルン
十三 ハ海邊にすみ舟の泊る海邊に住ハんとうの界ハシドンにおよぶべし 十四 イッ
十四 サカルハ羊の牢の間に伏す健き驢馬の如し 十五 彼みて安泰を善としうの國
十五 を樂とし肩をさげて負ひ租稅をいだして僕となるべし 十六 ダンハイスラエ
十六 ルの他の支派の如く其民を鞫かん 十七 ダンハ路の旁の蛇のごとく途邊にあ
十七 る蝮のごとし馬の踵を噛てうの騎者をして後に落去む 十八 エホバよわれ汝
十八 の拯救を待り 十九 ガドハ軍勢これにせまらんされど彼反てうの後にせまら
十九 ん 二十 アセルよりいづる食物ハ美るべし彼王の食ふ美味をいださん 二十一 ナフ
二十 タリハ釋れたる鹿のおとし彼美言をいだすあり 二十二 ヨセフハ實を結ぶ樹の
二十一 芽のおとし卽ち泉の傍にある實をむすぶ樹の芽のごとしその枝つひに垣
二十二 を踰ゆ 二十三 射者彼をおやまし彼を射かれを惡めり 二十四 然ぞかれの弓ハあは勁
二十三 くわり彼の手の臂ハ力あり是ヤコブの全能者の手によりてあり其よりイ
二十四 スラエルの磐ある牧者いづ 二十五 汝の父の神による彼あんぢを助けん全能者
二十五

による彼あんぢを祝まん上ある天の福、下によこたはる淵の福、乳哺の福、
二六 胎の福汝にきたるべし二六父の汝を祝することわが父祖の祝したる所に
勝て恒久の山の限極にまでおよばん是等の祝福ヨセフの首に歸しその
二七 兄弟と別におりたる者の頭頂に歸すべし二七ベニヤミンは物を噛む狼あり
朝にその所掠物を啖ひ夕にその所攫物をわかたん二八是等はイスラエルの
二八 十二の支派あり斯その父彼らに語り彼等を祝せりすおのおのの祝すべき
所に応たがひて彼等諸人を祝せり二九ヤコブまた彼等に命じて之にいひけ
二九 るは我わが民にくわゝらんとすヘテ人エフロンの田にある洞穴にわが
先祖等とゝもに我をとうむれ三十その洞穴はカナンの地にてマムレのまへ
三十 なるマクペラの田にあり是はアブラハムがヘテ人エフロンより田とゝも
三一 に購て所有の墓所となせし者なりニ一アブラハムとその妻サラ彼處にはう
むられイサクとその妻リベカ彼處に葬られたり我またかしこにレアを葬
三二 れり三二彼田とその中の洞穴はヘテの子孫より購たる者なり三三ヤコブその

子に命ずることを終し時足を床に斂めて氣たえてその民にくわゝる
一 二
第五十章 ヨセフ父の面に俯し之をいだきて哭き之に接吻すニ而してヨセ
フその僕ある醫者に命じてその父に香らしむ醫者イスラエルに香れり三
三 四 五 六 七 八 九
すおのおの之がために四十日を用ふ其の尸に香るにおこの日數を用ふべ
ければおのおのエジプト人七十日の間之がために哭けり四哀哭の日すぎし時
ヨセフパロの家にかたりていひけるわ我もし汝等の前に恩惠を得るなら
ペ請ふパロの耳にまうして言へ五わが父我死ばカナンの地にわが掘おき
たる墓に我をはうむれといひて我を誓わせたり然ば請ふわれを去て上
りて父を葬らめたまへまた歸りきたらんと六パロいひけるは汝の父汝
をちかわせしごとくのぼりて之を葬るべしセ是に於てヨセフ父を葬らん
とて上るパロの諸の臣パロの家の長老等エジプトの地の長老等ハおよび
ヨセフの全家とその兄弟等およびその父の家之とゝもに上る只その子女
と羊と牛わゴセンの地にのこせりカまた車と騎兵ヨセフに応たがひての

十 ぼり其隊はなはだ大なりき十彼等つひにヨルダンの外なるアタデの禾場
に到り彼にて大に泣き痛く哀しむヨセフすないち七日父のために哭きぬ
十一 十一ろの國の居人なるカナン人等アタデの禾場の哀哭を見て是ハエジプト
人の痛くなげくなりといへり是によりて其處の名をアベルミツライム
十二 (エジプト人の哀哭)と稱ふヨルダンの外にあり十二ヤコブの子等ろの命せ
十三 られたるごとく之になせり十三すないちヤコブの子等彼をカナンの地に舁
ゆきて之をマクペラの田の洞穴にはうむれり是ハアブラハムがヘテ人エ
フロンより田とゝもに購とりて所有の墓所となせし者にてマムレの前に
十四 あり十四ヨセフ父を葬りてのち其兄弟および凡て己とゝもにのぼりて父を
十五 はうむれる者とゝもにエジプトにかへりぬ十五ヨセフハ兄弟等ろの父の死
たるを見ていひけるハヨセフあるひハわれらを恨むることあらん又かな
十六 らずわれらが彼になしたる諸の惡ふむくゆるならんと十六すなハちヨセフ
十七 にいひおくりけるハなんぢの父死るまへふ命じて言けらく十七汝ら斯ヨセ

フにいふべし汝の兄弟汝に惡をなしたれども冀ハくハろの罪咎をゆるせ
と然ぞ請ふ汝ハ父の神の僕等の咎をゆるせとヨセフろの言を聞て啼泣り
十八 十八兄弟等もまた自らきたりヨセフの面のまへに俯し我等ハ汝の僕となら
十九 んといふ十九ヨセフかれらふいひけるハ懼るなかれ我あに神にかはらんや
二十 二十汝等ハ我を害せんとおもひたれども神ハろれを善にかハらせ今日の如
二一 く多の民の生命を救ふふいたらしめんとおもひたまへり二一故に汝らおろ
るゝなかれ我なんぢらと汝らの子女をやしなはんと彼等をなぐさめ懇に
二二 之にかたれり二二ヨセフ父の家族とともふエジプトふすめりヨセフハ百十
二三 歳いきながらへたり二三ヨセフエフライムの三世の子女をみるにいたれり
二四 マナセの子マキルの子女もうまれてヨセフの膝ふありき二四ヨセフろの兄
弟等にいひけるハ我死ん神かならず汝等を眷顧みなんぢらを此地よりい
だしてろのアブラハムイサクヤコブにちかひし地にいたらしめたまハん
二五 と二五ヨセフ神かならず汝等をかへりみたまハん汝らわが骨をこゝよりた

二六 づさへのぼるべしといひてイスラエルの子孫を誓いしむ二六ヨセフ百十歳
ふして死たれど之ふ釁りて櫃ふをさめてエジプトふおけり

舊約全書創世記終

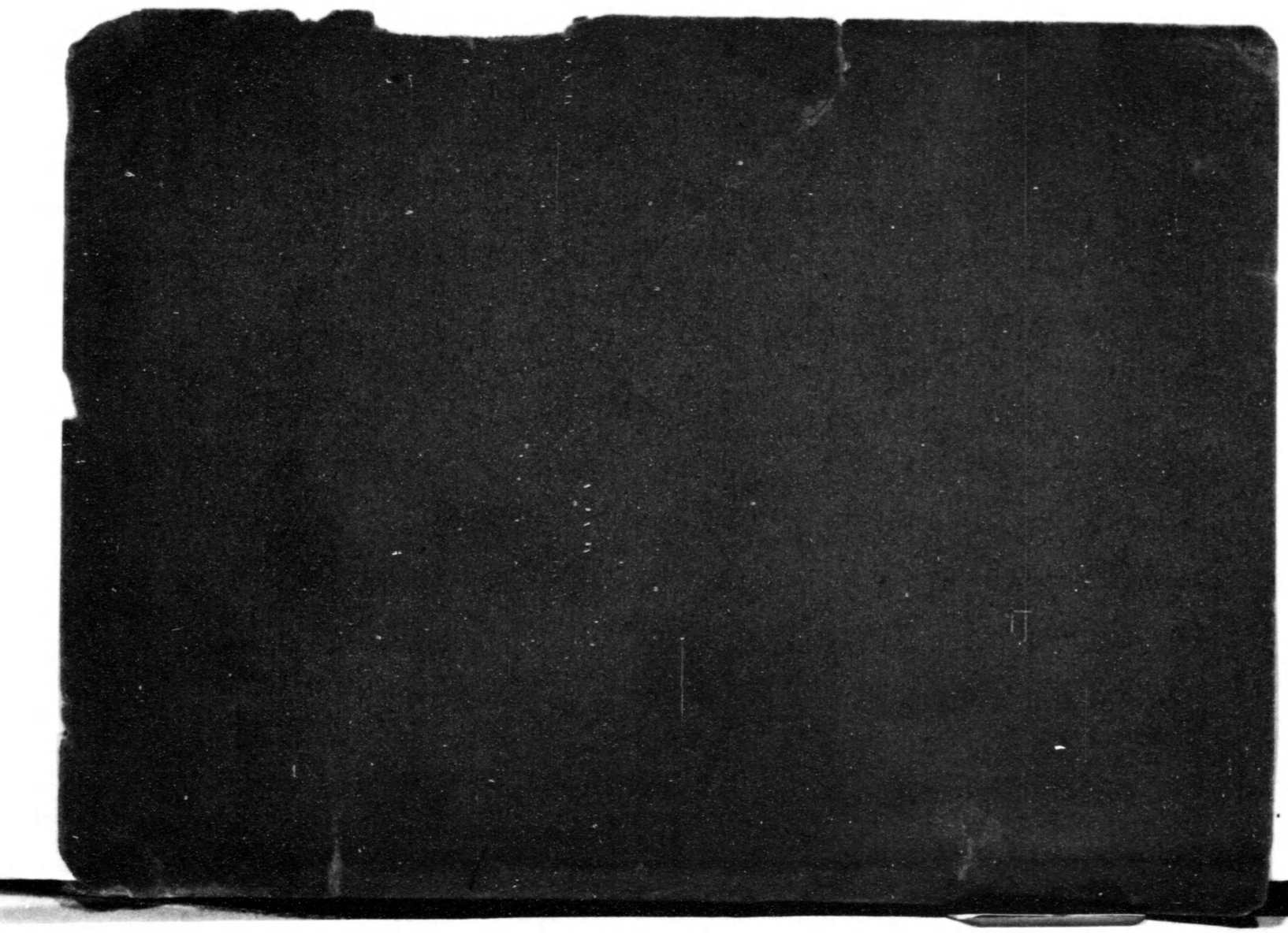
明治三十四年三月十一日印刷
明治三十四年三月十四日發行

發行者　神奈川縣横濱市山手町九番地　エフ、パロット

印刷者　神奈川縣久良岐郡根岸村三千五百六十五番地　半田研吉

發行所　神奈川縣横濱市山下町六十番地　聖書舘

印刷所　神奈川縣横濱市山下町八十一番地　福音印刷合資會社



021709-000-0

特61-858

創世紀（旧約聖書）

エフ．パロット／刊

M34

ABI-1624